

KYOTO EXPERIMENT Office
6F 7th Hase Bldg.
229-2 Shoshoi-cho, Nakagyo-ku, Kyoto
604-0862 JAPAN
Tel +81 75 213 5839 Fax +81 75 213 5849



KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2024 プログラム発表

広報に関するお問合せ先☎ KYOTO EXPERIMENT 事務局（広報担当：前田、豊山、後藤）

Tel: 075-213-5839 Mail: pr@kyoto-ex.jp

※本資料に掲載の画像をご使用希望の場合は上記までご連絡ください。

その他のお問合せ☎ KYOTO EXPERIMENT 事務局

☎ 604-0862 京都市中京区少将井町 229-2 第7長谷ビル 6F

Tel: 075-213-5839（平日 11:00-19:00 [7月までは平日 11:00-17:00、開催期間中は無休]） Fax: 075-213-5849

Mail: info@kyoto-ex.jp Web: kyoto-ex.jp



KYOTO EXPERIMENT とは

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭は、
2010年より毎年開催している京都発の国際舞台芸術祭で、今年で15回目を迎えます。
国内外の「EXPERIMENT（エクスペリメント）＝実験」的な舞台芸術を創造・発信し、
芸術表現と社会を、新しい形の対話でつなぐことを目指しています。
演劇、ダンス、音楽、美術、デザインなどジャンルを横断した実験的な表現が集まり、
そこから生まれる創造、体験、思考を通じて、舞台芸術の新たな可能性をひらいていきます。

※プレスリリースは、ウェブサイトよりダウンロードできます。

<https://kyoto-ex.jp>

※広報用画像は、ウェブサイト内プレスページにてパスワードを入力いただくと
ダウンロードできます。パスワードは下記までお問合せください。

KYOTO EXPERIMENT 事務局（広報担当：前田、豊山、後藤）

Tel：075-213-5839（平日 11:00-19:00 [開催期間中は無休]） Mail：pr@kyoto-ex.jp

目次

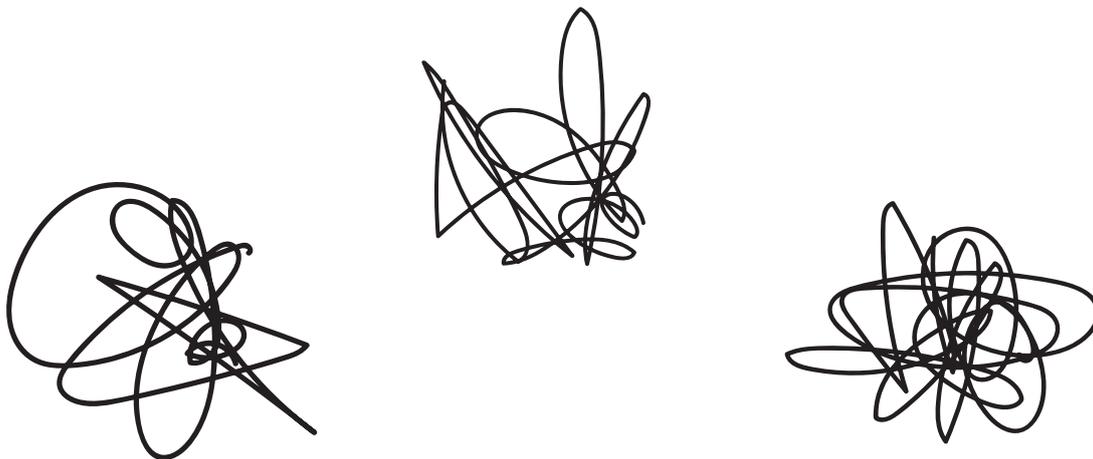
p.5	開催趣旨、概要
p.6	ごあいさつ
p.7-8	ディレクターズ・メッセージ
p.9	フェスティバルを構成する3つのプログラム
p.10-11	Kansai Studies (リサーチプログラム)
p.12-30	Shows (上演プログラム)
	ムラティ・スルヨダルモ
	松本奈々子&アンチー・リン (チワス・タホス)
	穴迫信一 × 振子びじん with テンテンコ
	チェン・ティエンジュオ & シコ・スティヤント
	余越保子/愛知県芸術劇場
	ジャハ・クー/CAMPO
	アミール・レザ・コヘスタニ/メヘル・シアター・グループ
	アレッサンドロ・シャッローニ
	(ラ)オールド × ローン with マルセイユ国立バレエ団
	オラ・マチェイエフスカ
	クリスチャン・リゾー
	マチルド・モニエ & ドミニク・フィガレラ
p.29	ワークショップ
p.30-33	Super Knowledge for the Future [SKF] (エクスチェンジプログラム)
p.34	Echoes Now、フリンジ「More Experiments」
p.35	ミーティングポイント
p.36	感想シェアカフェ、ブックフェア、パートナーホテル
p.37-39	関連プログラム、提携プログラム
p.40	会場
p.41-42	チケット情報
p.43	KEX サポーター
p.44-45	スケジュール
p.46-47	開催クレジット

📖 開催趣旨

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2024 は、「えーっと えーっと」をキーワードに、多様な人々と舞台芸術の出会いと対話が可能になるフェスティバルとして開催します。

何かを思い出そうとするとき、誰かと会話をするとき、わたしたちは「えーっと」と言いながら、断片的な記憶を寄せ集めてことばにすることが多いのではないのでしょうか。それは、空白を埋めることばであり、何かを考えたり探しているときのことばでもあります。他者へのあいだを埋めながら、記憶と対話をつないでいくためのことばでもあるかもしれません。過去と現在、他者と自分をつなぎ、次のことばを紡ぐための「えーっと」をキーワードとしてフェスティバルを展開します。

フェスティバルが根ざす関西地域をアーティストの視点で探究し、未来の創造的な土壌を耕していくためのリサーチプログラム「Kansai Studies」、世界各地の実験的な舞台芸術を紹介する上演プログラム「Shows」、実験的表現とそれが生まれる背景や、いまを考えるトピックを扱うワークショップやトークが体験できるエクスチェンジプログラム「Super Knowledge for the Future [SKF]」の3つのプログラムでフェスティバルを実施します。



📖 概要

会期📖 2024年10月5日(土) - 10月27日(日)

会場📖 ロームシアター京都、京都芸術センター、京都芸術劇場 春秋座、THEATRE E9 KYOTO、
京都府立府民ホール“アルティ”、京都市役所本庁舎屋上庭園、堀川御池ギャラリーほか

主催📖 京都国際舞台芸術祭実行委員会

[京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、
京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、
京都芸術大学 舞台芸術研究センター、
THEATRE E9 KYOTO(一般社団法人アーツシード京都)]、
一般社団法人 KYOTO EXPERIMENT

ごあいさつ

京都市長ご挨拶

国内外で活躍する新進気鋭のアーティストが京都に集う舞台芸術の祭典「KYOTO EXPERIMENT」は今回、記念すべき15回目となります。芸術表現の最先端を走り続ける壮大な実験（EXPERIMENT）がこうして今年も開催できることを心から嬉しく思います。開催に御尽力いただいた山本麻友美実行委員長をはじめ、すべての関係者の皆様に深く敬意と感謝の意を表します。

今年のテーマは「えーっと えーっと」。私たちが何かを考えたり、記憶を思い出したりするときになじみの深い言葉です。豊かな歴史と文化を有するここ京都は、過去、現在、未来が交錯する場所。アーティストの研ぎ澄まされた感性で紡ぎ出される京都ならではの表現に期待が高まるばかりです。御来場の皆様は、今ここだけの作品との出会いを心ゆくまでお楽しみください。

本市としても、「古きをいつくしみ、新たな世を切り拓く」との方針で、伝統を大切に、多才な人々が集い、文化を支える強い経済の復活やさまざまな社会課題の解決につなげる。そして「突き抜ける魅力のある文化首都・京都」の実現に全力で取り組んでまいります。変わらぬ御支援と御協力をお願い申し上げます。

京都市長 松井孝治

実行委員長ご挨拶

毎日、市バスに乗って通勤しています。近年、混雑気味の京都のバス、市民の中には使わないという人も多いかもしれません。自転車の方が早いし、観光地のバス停には近づきたくない。少し前まで私もそう思っていました。

しかし最近の市バスは、とても面白いのです。多国籍化が進み、多様な背景を持つ人たちが無作為に選出され集う異次元の劇場空間のようだと感じる時もあります。国籍も年齢も異なる人たちがたまたま乗り合わせた空間。習慣の違いから来るちょっとしたやりとり、イラついて疲れている人、乗客同士の気遣い、運転手さんの人柄……さまざまなものがにじみ出ている。言うなれば、パブリックとプライベートが混在する空間で、ストレスを軽減する、非公式な社会統制の働く空間で、その場の集団的効力感がどのように醸成されるのかを試す実験場のよう。そこに参加することも、観察することも、無視することもできる、というのが最近の楽しみ方です。

地域社会の秩序を維持しようとする人たちの、葛藤を経ての折り合いのつけ方、創意工夫と配慮と主張のバランス。文化とは、このようなところから生まれるものなのかもしれないとも思うようになりました。言うなれば複雑なチューニングの最前線です。効率化、合理化を考えるなら、ルールを作り、権力で統制すればよいだけのこと。でもそれをしないのはなぜか。パブリックな統制ではなく、プライベートな気づきや思いやりが土台であることも重要な点です。

今年のキーワードが「えーっと えーっと」であると聞いた時に、チューニングを行う際に、バッファを生み出してくれる言葉だなと思いました。疑問や違和感にぶつかった時に、反射的に反応するのではなく、少しだけ立ち止まって考えることは、社会が複雑になるほど、重要なふるまいになると思います。京都の実験と名のついたフェスティバルでできること、まだまだ多いなと感じています。最高に刺激的なアーティストの作品から、京都という都市のありようから、何をどのように伝えるべきかを一緒に考えていきたいと思っています。

京都国際舞台芸術祭実行委員長 山本麻友美

☞ ディレクターズ・メッセージ

KYOTO EXPERIMENT は 2024 年に 15 周年を迎える。この規模の舞台芸術フェスティバルがこれだけ続いているということは、あらゆるセクターでその存続を願って動いてくださっている人々が多数存在しているということだと思う。そのことにとても感謝しています、というのは自然な気持ちだが、もはやそうして動いてくださっている方々全てのフェスティバルだとすら思う。いまや、このフェスティバルはみなさんとの共有財産なのだと認識し、より良く存続させるために日々動いていきたい。

「えーっと えーっと」

この数年、フェスティバルへの新たな視点を発見する手がかりとして、キーワードを提案してきた。今年はプログラムを探索するレンズのような言葉として、「えーっと えーっと」を提案する。もし良ければ着用できる、プログラムを見るためのメガネ！もちろん、装着するかどうかはあなた次第。

「えーっと えーっと」と聞くと、少しネガティブな意味合いに感じるかもしれない。不安や自信のなさ、あるいは不快感を抱いている誰かが発しているように感じるかもしれないから。しかし、「えーっと えーっと」は「フィラー」や「ディスコースマーカー」と呼ばれるものの一例で、話し手と聞き手の双方にとって、会話の中では役に立つものである。

フィラーには固有の意味はないが、コミュニケーションの相手に何かを伝える。「えーっと えーっと」は、人が情報を処理しているとき、記憶を呼び起こそうとしているとき、何かについて熟考しているとき、そして、誰かと会話を共有しているときに発する音である。意味がない空白のスペースであり、わからないことや何かに折り合いをつけるための空間でもあるかもしれない。

今年のフェスティバルでは、個人と集団・自己と他者の間の折衝について、あるいはさまざまな歴史や個人的・文化的・政治的な記憶を私たちがどのように形づくるか、過去との対話の中でそれらの記憶を再構築する（あるいはしないことを選択する）行為について、考えることができる作品がラインナップされている。これらの作品へのアクセスが、「えーっと えーっと」によってさまざまな道のりを開かれることを願っている。

プログラムについて

上演プログラムである Shows では、13 演目を紹介する。

このうち、5 アーティスト・6 演目は、京都と埼玉で開催される、ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ&アーベルフェスティバルとのパートナーシップにより上演する。2022 年から始まったダンス リフレクションズとの協働は、ポストモダンからコンテンポラリーに至るまでのダンスにおける継承に注目して展開してきた。今回は、民間伝承としてのフォークダンスやモダンダンスの揺籃期など、より大きな射程に視野をおいたダンスの歴史的な継承を検証しながら、いま私たちが生きる 2024 年、そしてこれからの未来にまで思考をめぐらせることができるプログラムになっている。6 演目を通して、歴史をたどる「えーっと」、そしてこれからを考える「えーっと」を体験してほしい。

「継承」という機軸は、世代を越えて引き継がれてきた物語や文化を参照しながら、観客を共同の体験に誘う、2 組のコラボレーション作品にも見ることができる。松本奈々子&アンチー・リン（リングルーツを持つ台湾の原住民族・タイヤル族の呼び名はチワス・タホス）による新作では、日本の民話とタイヤル族の言い伝えを参照しながら、それらの物語の時空を超えた邂逅が描かれるかもしれない。チェン・ティエンジュオ&シコ・ステイアントは、インドネシア・レンバタ島のラマレラ村で伝統的に行われてきた捕鯨を集会的な儀式に昇華し、それに参加する観客は海に生かされてきた人間と環境の関係性を考えることができる。

テキストと身体の境界線を歩きながら、生と死の道なき道を描き出すのは、穴迫信一と振子びじんによる新作である。「えーっと」が何かと何かの間を埋める言葉であるとするならば、この作品はテキストと身体の行き来を「えーっと」で埋めながら考えてみたい。電子音楽家のテンテンコが加わることで、その行き来はより増幅されることだろう。戯曲と身体の関係性に挑むのは、羽鳥ヨダ嘉郎による戯曲にダンスでアプローチする余越保子の演出も同様である。上演不可能といわれたテキストへの余越の応答は、戯曲の演出とは何か、という問いと共に、日本という国家が歩んできた近代以降の歴史への眼差しをもあぶり出す。

社会が定める規範や制約に対して、立ち止まるような抵抗の身振りを静かに、しかしラディカルに描き出すのは、ムラティ・スルヨダルモである。今回は、ふたつのプロジェクトを紹介する。パフォーマンスでは、制服のような白い服に身を包んだ女性たちが、押し付けられた原罪に自ら身を浸すかのように、青い水に身体を浸していく。展示では、アジア人女性である自身の身体が、「バター」という西洋的かつ不安定な物質の上で舞う作品の映像を年代別にインスタレーションとして構成し、身体がその器となる記憶をたどるとともに、より近年発表された集会的な暴力と恐怖を描いた映像作品を紹介する。

これまでの創作で、大文字の歴史ではなく人々の生活に見出すことができる歴史を見つめてきたジャハ・クワの新作でも、国家事業として輸出される「韓国料理」へのささやかな抵抗を見ることができのかもしれない。味の記憶が、過去、現在、未来をつなぐ先には何があるのか、ぜひ劇場に出現するボジャンマチャ（屋台）に集って体験していただきたい。

2019年以降の登場となるアミール・レザ・コヘスタニは、走ることと政治にまつわるさまざまな実話をモチーフにした作品を上演する。歩くことや走ることでそれが抵抗の身振りとなることは、日本にいる私たちにとっても身近なことである。さまざまな抵抗の身振りとしての「えーっと」を、これらのプログラムを通して考えられればと思う。

5年目を迎える Kansai Studies では、新たに3名のリサーチャーを迎えてリサーチを進行している。都市における鳩の観察、クラブカルチャーやパーティの空間性、動物園の場所性と物語と、3つのリサーチはそれぞれ独自の着眼点で京都および関西圏でフィールドワークを行っていく。ここで発見したものは、これからの KYOTO EXPERIMENT を形づくっていくもののひとつになっていくはずだ。

Super Knowledge for the Future [SKF] では、キーワード「えーっと えーっと」を出発点に、さまざまな専門家を迎えたトークイベントやワークショップを構成した。Shows とはまた異なった視点や入り口から、今回のキーワードを考えていただくきっかけとなれば幸いである。

サポーター制度とこれからについて

昨年度創設した「KEX サポーター」制度は、観劇とは別の方法でフェスティバルに参加していただけるプラットフォームといえるかもしれない。これまで KYOTO EXPERIMENT の予算を構成してきた、実行委員会の負担金や公的助成金などとは異なる、個人の寄付がフェスティバルを大いに勇気づけているということをお伝えしたい。支援して下さる方々との直接のコミュニケーションは、フェスティバルを形づくる重要な構成要素である。これからもサポーターのみなさまとどのようなお話ができるのか、楽しみにしている。

国内外の社会状況も、フェスティバルとしての財政状況も大きく変わるなか、いまの時代の国際舞台芸術祭としてどのようなプログラミングをするべきなのか、実験的な遊びを失わず、しなやかに運営するにはどうしたら良いのか、これまでの5年間考え続けてきた。フェスティバルを作ってくれるアーティストのみなさん、観劇することでフェスティバルのもうひとつのピースを作ってくれる観客のみなさん、そして支えて下さる関係各所やサポーターのみなさんと共に、これからも考えていきたい。まずは、今年の KYOTO EXPERIMENT でお会いしましょう。

KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター
川崎陽子 塚原悠也 ジュリエット・礼子・ナツ

📖 フェスティバルを構成する3つのプログラム

カンサイ・スタディーズ

① Kansai Studies (リサーチプログラム)

京都発の国際フェスティバルとして、自分たちが立脚する「地域」について自覚的に捉え、フィールドワークを通して探求するプログラム。アーティストが中心となり、地域住民やプロデューサー、研究者と一緒に、京都や関西の文化を継続的にリサーチしていきます。活動を通じて生まれた思考の軌跡やプロセスは特設ウェブサイトに蓄積され、誰もがアクセスできるオンライン図書館として公開。未来のクリエイターや企画のためのナレッジベースや実験場、アイデアソースとなることを目指します。

📖 リサーチメンバー

石川琢也、内田結花、前田耕平

ショウズ

② Shows (上演プログラム)

世界各地から先鋭的なアーティストを迎え、いま注目すべき舞台芸術作品を上演するプログラム。京都および関西における舞台芸術の変遷と動向に注目しながら、ダンス、演劇、音楽、美術といったジャンルを越境した実験的作品を紹介します。

📖 参加アーティスト [上演順]

ムラティ・スルヨダルモ [スラカルタ (インドネシア) | 展示・パフォーマンス]
 アレッサンドロ・シャッローニ [ローマ (イタリア) | ダンス]
 (ラ)オールド × ローン with マルセイユ国立バレエ団 [マルセイユ (フランス) | ダンス]
 オラ・マチェイエフスカ [プリジアック (フランス)・ポーランド | ダンス]
 松本奈々子 & アンチー・リン (チワス・タホス) [東京 (日本) / 台北 (台湾) | パフォーマンス]
 クリスチャン・リゾー [モンペリエ (フランス) | ダンス]
 穴迫信一 × 振子びじん with テンテンコ [北九州・京都・東京 (日本) | 演劇]
 マチルド・モニエ & ドミニク・フィガレラ [モンペリエ (フランス) | ダンス]
 チェン・ティエンジュオ & シコ・スティヤント
 [ベルリン (ドイツ)・北京 (中国) / ジャカルタ (インドネシア) | パフォーマンス]
 余越保子 / 愛知県芸術劇場 [京都 (日本) | パフォーマンス]
 ジャハ・ター / CAMPO [ヘント (ベルギー)・ソウル (韓国) | パフォーマンス]
 アミール・レザ・コヘスタニ / メヘル・シアター・グループ [テヘラン (イラン) | 演劇]

スーパー・ナレッジ・フォー・ザ・フューチャー

③ Super Knowledge for the Future [SKF] (エクスチェンジプログラム)

アーティストは未来を予見する!? とりわけ実験的な舞台芸術作品と社会を対話やワークショップを通してつなぎ、新たな思考や対話、フレッシュな問題提起など、未来への視点を獲得していくプログラム。実験的表現が映し出す社会課題や問題をともに考え、議論し、現代社会に必要な智恵や知識を深めていきます。ここで獲得できるスーパー知識(ナレッジ)は、予測不能な未来にしなやかに立ち向かうための拠り所となるはずです!

📖 Kansai Studies

Kansai Studies は、フェスティバルが根ざす関西圏を対象としたリサーチプログラム。アーティストの視点で地域の文化や風土をフィールドワークすることで、未来の芸術表現を豊かにする「原石」を掘り起こしていくものだ。第3期となる2024年度は3名のリサーチャーが現在、各自が設定したテーマでフィールドワークを行っている。

3人のリサーチ中に起こったあらゆる出来事や発見、思考はテキストや映像で記録され、特設ウェブサイトで随時公開・アーカイブされ、未来の企画やクリエイターのためのナレッジベースとなっていく。観察やリサーチを通して、身近なものやコトを感性豊かに、解像度高くとらえる実践は、観客であるわたしたちの「ものの見方」にも、きっと新たな気づきや刺激を与えてくれることだろう。フェスティバル会期中には、リサーチの経過報告を兼ねたパブリックイベントを開催する。

2024年度リサーチャー / リサーチテーマ（五十音順）

石川琢也 「詩的なテクノロジーとしてのパーティ、職能、空間について」

内田結花 「ニュー・フィールドワーク京都編」

前田耕平 「『あわいの島』動物園をめぐる話」

* 会期中のパブリックイベントは、KYOTO EXPERIMENT ウェブサイト及び Kansai Studies 特設サイトにて後日お知らせします。

KANSAI STUDIES

Kansai Studies 特設サイト
kansai-studies.com



ミーティング風景

石川琢也

詩的なテクノロジーとしてのパーティ、職能、空間について

「詩的なテクノロジー (poetic technologies)」とはアメリカの人類学者でアナキスト、アクティヴィストでもある故・デイヴィッド・グレーバーの言葉であるが、それは『不可能であるような放縦な空想を実現させるための知識の総動員』された状態であり、つまりクラブなどのパーティで立ち現れる主体的かつ自由な空間が実現している状態を表したものである（その逆は「官僚的テクノロジー」とされる）。そこにはDJやオーガナイザーをはじめ、空間性も含めたあらゆる構成要素がその状態に寄与している。そういったカルチャーやその成り立ちについてリサーチを行うべく、関係者へのインタビューや街を徘徊することを進めてゆきたい。

石川琢也 Takuya Ishikawa

教育者 / 研究者 / Director / 京都芸術大学 専任講師。UI・UX デザインを職務とした後、2013年に情報科学芸術大学院大学 (IAMAS) に進学。2016年山口情報芸術センター [YCAM] エducレーターに着任し、「RADLOCAL」などの教育・地域プログラム、音楽プログラムの企画制作を担当。2020年より現職。日野浩志「GEIST」プロデュースをはじめ、音楽イベント、アート制作のディレクション、クラブカルチャーの文化史・commons研究を行う。共著に『新世代エディターズファイル 越境する編集—デジタルからコミュニティ、行政まで』。



内田結花

ニュー・フィールドワーク京都編

京都に住まう「鳩」を観察し、記録（写真、映像、テキスト、スケッチ、聞き込みなど）と考察を重ねる。鳩における、関西らしさや京都らしさはあるのかないか。学術的なフィールドワークではなく、定石や体系的な方法論を無視した、あくまで素人による身近な動物へのフリースタイルな接近方法を模索する。京都の鳩をリサーチするために、まずはロームシアター京都の中庭から始める予定で、知っている場所を違う目線で見てみることを実践を進める。

内田結花 Yuka Uchida

ダンサー・振付家。上演環境や状況に振付けられる身体をテーマに、これまで屋内外のあらゆる場で自作品を発表。主な作品に、暮らす日々を記録した日記を振付に踊る『暮らしのシリーズ』(2014, 19-23)、憧れ尊敬する人々を想像力と妄想力を駆使し（誤解含む）取り込んでいく『リスペクトピープル』(2020-)、フィールドワークの素人たちが鳩のコミュニティを探る『ニュー・フィールドワーク』(2023-) などがある。また、ダンサーとして、さまざまな振付家や作家の作品に出演している。幼少期より、セキセイインコやオカメインコなどの鳥、熱帯魚やメダカなどの魚、カブトムシなどの虫、犬などと生活を共にしてきた。



©Junpei Iwamoto

前田耕平

「あわいの島」動物園をめぐる話

陸、海、空の120種、1600頭の動物が暮らすテーマパーク南紀白浜「アドベンチャーワールド」との共同プロジェクトにて「動物園の未来」をテーマに、2022年よりフィールドワークとリサーチを行っている。この度のリサーチを経て、2024年秋より同園にて映像作品《あわいの島》と展覧会を行う予定である。今展に先駆けて Kansai Studies では、現在までの動物園に関するリサーチや実験的な制作の一部共有を行う予定。動物園という場所性、動物園動物という存在、課題や今後の展望について。

前田耕平 Kohei Maeda

アーティスト。1991年和歌山県生まれ。関西を拠点に活動。2017年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻構想設計修了。自身のルーツとなる紀伊半島での風土や体験、同郷の博物学者である南方熊楠の哲学を根幹に「自然と人の関係や距離」をテーマに活動。国内外の自然地形や生態系、文化や信仰に目を向け、フィールドワークやプロジェクトから写真、映像、パフォーマンス、インスタレーションなどの作品を制作。境界を問い、不可視に触れ、時に祭事のようにその過程と行為を展開する。近年の展覧会に「タイランドピエンナーレ 2023」(チェンライ)、個展「点る山、麓の座」(国際芸術センター青森)など。



Shows

ムラティ・スルヨダルモ [スラカルタ (インドネシア)]

スウィート・ドリームス・スウィート [パフォーマンス] 日本初演

SWEET DREAMS SWEET

10.5 (土) 12:15

10.6 (日) 12:15

会場 京都市役所本庁舎屋上庭園

上演時間 180分

* 上演中の入退場自由。

荒天の場合、パフォーマンス会場が変更になる場合があります。



Melati Suryodarmo, "Sweet Dreams Sweet" (2013 - 2024), performed at the Hamburger Bahnhof Museum for Contemporary Art, Berlin in 2018
©Reinhard Lutz

TIDAK APA-APA [展示] 日本初紹介

10.5 (土) -10.27 (日) 10:00-20:00

会場 京都芸術センター ギャラリー北・南



Melati Suryodarmo, "Energie-butter dance" (2000), performed at the VideoBrazil, Sao Paulo, Brasil in 2005
©Isabel Matthaeus



Melati Suryodarmo, "Timoribus" 2018, video stills.
Photo courtesy of the artist.

記憶、感情、文化、歴史、政治
いつもどこでも、身体からはじまる

長時間にわたる集中的な反復行為によって、身体と社会の関係における現在を生々しく浮かび上がらせるムラティ・スルヨダルモ。身体は記憶と感情の容れ物であると語るスルヨダルモの作品は、ルーツであるインドネシアで受けた教育、アーティストとしてのキャリアをスタートさせ20年を過ごしたドイツでの生活など、常に自身の経験に立脚している。ユニークかつ切実なこのパフォーマンスアーティストの実践を、今回は上演と展示の両面から紹介する。

『スウィート・ドリームス・スウィート』は、上演される地域に暮らす28名の女性によって行われるパフォーマンスだ。揃いの白い衣装をまとった彼女たちは、バケツの中の水に足を浸して、白いストッキングを徐々に青く汚していく。緩慢に動くひとりひとりの顔つきや表情は、ベール越しのために判別がつかない。個性が抑圧された女性たちの姿は、インドネシアの社会で、あるいは世界の各地で発生している、均一化への圧力を暗示する。

インドネシア語で“does not matter, It's OK, don't worry”という意味がつく展示「TIDAK APA-APA」では、2つの映像作品を紹介。タイトなワンピースとハイヒールという出で立ちのスルヨダルモがお立ち台のように設えられたバターの上で踊る代表作『Exergie - butter dance』は、2000年の発表以降、さまざまな場所で上演されてきた。溶けていくバターに足をとられ、ダンスは中断と再開を繰り返す。今回の展示では、時期の異なるパフォーマンスの記録映像がひとつのインスタレーションとして構成される。

ラテン語で「恐怖」を意味する『Timoribus』。1960年代から70年代にかけてのパフォーマンスアートの実践を参照しながら制作されたこのビデオインスタレーションでは、若者たちが暴力を演じるいくつかのシークエンスが重なり、反響していく。ソーシャルメディアのタイムラインを大量のコンテンツが流れ去っていく今、わたしたちは映像に向けていったいどんな欲望を投げかけているのだろうか？

ムラティ・スルヨダルモ Melati Suryodarmo

1969年生まれ。インドネシア出身のパフォーマンスアーティスト。舞踏家・振付家の古川あんずに薫陶を受けたほか、ブラウンシュヴァイク美術大学ではパフォーマンスアーティストのマリーナ・アブラモヴィッチのもとで学ぶ。スルヨダルモの作品は、身体とその身体が属し住まう文化や環境との関係性、また、時間やアイデンティティ、政治などのテーマを扱う。ヘルシンキ現代美術館（フィンランド、2007）、HKWベルリン（2009）、シンガポール・ビエンナーレ（2016）、マカン美術館（ジャカルタ、インドネシア、2020-21年）、ボンネファンテン美術館（マーストリヒト、2022）、アイコン・ギャラリー（バーミンガム、2023）などの国際的なフェスティバルや展覧会で作品を発表。また、インドネシア、ソロにて毎年開催されるパフォーマンスアートのイベント Performance Art Laboratory Project を主催するほか、2021年には同市内にアートスペース Studio Plesungan を設立。ジャカルタ・ビエンナーレ 2017でアーティストティック・ディレクター、2022年から現在まで Indonesia Bertutur Festivalでアーティストティック・ディレクターを務める。



©Melati Suryodarmo.
Photo by Harry Hartantio

松本奈々子&アンチー・リン (チワス・タホス) [東京 (日本) / 台北 (台湾) | パフォーマンス] 新作

ねばねばの手、ぬわれた山々

Sticky Hands, Stitched Mountains

10.12 (土) 14:00

10.13 (日) 14:00 / 18:00 ★

10.14 (月・祝) 14:00 ★

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場 THEATRE E9 KYOTO

上演時間 60分 (予定)



©Anchi Lin

照葉樹の繁る山奥で

山姥とテマハホイが邂逅する

奥深い山は古来、周縁化された未知の存在が住む場所として描かれてきた。日本各地の民話では、老婆の姿をした山姥が山に棲む妖怪として登場する。台湾の原住民族タイヤル族のオーラルストーリーによると、女性のみコミュニティが山の奥深くにあるテマハホイという場所に住んでいるという。ではもし、日本と台湾の山が国境を越えてつながって、山姥とテマハホイの人びとが出会ったとしたら？

『ねばねばの手、ぬわれた山々』はチーム・チープロのメンバーとして東京を拠点に活動するダンスアーティストの松本奈々子と、タイヤル族にルーツをもち、現代美術家のアンチー・リン (タイヤル名はチワス・タホス) による初めての共同プロジェクトだ。丹念なりサーチに基づいてテキストと振付を構築する松本の「妖怪ボディ」メソッドと、文化とジェンダーのアイデンティティを探索するリンのクィア的アプローチが重ねあわされ、劇場にトランスナショナルな山が出現する。彼女たちはどんな声で語りだすのだろうか。

松本奈々子 Nanako Matsumoto

ダンスアーティスト。1992年大阪生まれ、東京在住。身体を批評的にあつかう手段としてのダンスへの関心を原動力に、舞台作品の創作のほか執筆や、ボランティアなどのパブリックアクションもおこなう。近年はパフォーマンスユニット「チーム・チープロ」の共同主宰としてダンス作品の制作に取り組んでおり、KYOTO EXPERIMENT 2021 AUTUMNとKYOTO EXPERIMENT 2022で2作品を発表。綿密なりサーチをもとに執筆したテキストを用いるパフォーマンスでは、歴史的・社会的・人類学的・地理的な文脈と、自身の身体感覚や記憶との交差を扱う。近年は、ある場所にかかわる複数のイメージを身体に重ねることで変容する「妖怪 body」を探索している。2023-2024年度セゾン文化財団「セゾンフェロー」。



©Shingo Kanagawa

アンチー・リン (チワス・タホス) Anchi Lin (Ciwass Tahos)

台北 (台湾) とナーム／メルボルン (オーストラリア) を拠点に活動するニューメディア／パフォーマンス・アーティスト。台湾の先住民族であるタイヤル族と台湾系漢民族のホーロー族にルーツを持ち、チワス・タホスはタイヤル族の呼び名。

チワスの身体的実践はパフォーマンス、映像、サイバースペース、陶芸、キネティック・インスタレーションを通して、先住民族のタイヤル族の世界観を紡ぎ出し、自己決定的なクィア・スペースを主張する。彼女の作品は、文化的、ジェンダー的アイデンティティの探索であり、自らの身体を媒体として、言語的、文化的な変遷の経験をたどり、新たな理解の形を模索している。最近では、台湾原住民文化基金会による Pulima Art Award の Biannual Prize を受賞し、2023年にはオーストラリア - 台湾友好年芸術交流パートナーシップの初代アーティストに選ばれた。



©Julia Lin Kingham

共同製作：KYOTO EXPERIMENT、国際交流基金、台北パフォーミングアーツセンター

共催：国際交流基金

主催：KYOTO EXPERIMENT

* 令和6年度国際交流基金舞台芸術国際共同制作事業として制作

穴迫信一 × 振子びじん with テンテンコ [北九州・京都・東京（日本） | 演劇] 新作

スタンドバイミー

Stand by Me

10.18（金）15:00 ★

10.19（土）13:00 / 19:00

10.20（日）13:00

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場 堀川御池ギャラリー

上演時間 60-120分（予定）



©mizuno hiro

境界線上を歩く身体

死者が生者を探す旅

北九州でブルーエゴナクを旗揚げし、現在は京都と東京も拠点に加えるなど、国内で縦横に活動を広げている劇作家・演出家の穴迫信一。磨赤兒率いる大駱駝艦で活動を開始し、その後自身のソロダンスや振付作品を発表すると共に、様々なアーティストと共同作業を行ってきたダンサー・振付家の振子びじん。THEATRE E9 KYOTOのアソシエイトアーティストを務めた経験もある2人が、初めての共同演出に臨む。

今作では、両者がかねてから関心を寄せていた死生観をテーマとし、「自らとの関係が保留されている（現在の、あるいは100年後の）死者の前に立つことができるか」の問いをもとに、穴迫が戯曲を書き下ろす。音楽性の高いリリカルな穴迫の言葉に、振子の身体性はどのように介入していくのだろうか。音楽は、アイドルグループBiSで活動後、ソロプロジェクトを展開するエレクトロニクスミュージシャン・DJのテンテンコが担う。

死者同士の対話は、生者の現実以上にその風景をリアルタイムに生起させるかもしれない。そこから観客が見出す、死と生と、そして現在とは。

穴迫信一 Shinichi Anasako

2012年にブルーエゴナクを結成。北九州、京都、東京の3都市を拠点に、普遍的かつ革新的な演劇作品の創作をコンセプトに活動。リリックを組み込んだ戯曲と、発語や構成に渡り音楽的要素を用いた演出手法を元に、〈個人のささやかさ〉に焦点を当てながら世界の在り方を見いだそうとする作風が特徴。ロームシアター京都×京都芸術センターU35創造支援プログラム“KIPPU”に選出され『sad』（2018）を上演。2022年度より THEATRE E9 KYOTO 第3期アソシエイトアーティストに選出され、『Doudemoii Shi』（2022）、『波間』（2023）の2作品を上演。また、豊岡演劇祭2023 フリンジプログラムでは、豊岡市竹野町に滞在し現地の盆踊り振興会の協力のもと『ゆきさきは環（めぐ）る』を上演した。セゾン文化財団セゾンフェローI。桐朋学園芸術短期大学非常勤講師。



振子びじん Pijin Neji

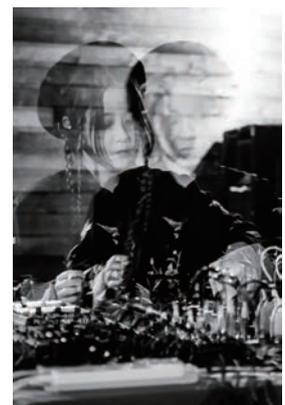
ダンサー・振付家。自身の体に微視的なアプローチをしたソロダンスや、ダンサーの体を物質的に扱った振付作品を発表する。目的を持たず、動いた瞬間に消え去ってしまう身振りと、それらを作品として統合する劇場の空間、舞台芸術の時間に注目し、ダンス作品を製作している。THEATRE E9 KYOTO 第2期アソシエイトアーティスト。セゾン文化財団セゾン・フェローII。



©Kai Maetani

テンテンコ Tentenko

東京を拠点とするエレクトロニクスミュージシャン。TAL (DE) より "An Antworten"、Couldn't Care More (DE) より "The Soft Cave" をリリース。伊東篤宏とのズンドコ系ライブインプロユニット "ZVIZMO"、カントリー田村との B2B DJ ユニット "HappySet" でも活動中。現在、幡ヶ谷 FORESTLIMIT にて、たぬきの宴をテーマにしたパーティー『ぼんぼこ山』を主催している。



*京都市教育委員会「堀川御池ギャラリー棟内 元アクアスペース トライアル・サウンディング事業」による実施事業

チェン・ティエンジュオ & シコ・スティヤント

[ベルリン (ドイツ)・北京 (中国) / ジャカルタ (インドネシア) | パフォーマンス] 日本初演

オーシャン・ケージ

Ocean Cage

10.19 (土) 16:00

10.20 (日) 16:00

会場  ロームシアター京都 サウスホール

上演時間  100 分

* 人により音が大きいと感じる場合があります。



©Camille Blake

映像と踊りと音楽が打ち寄せる

没入的な儀式の先に召喚されるのは

舞台芸術とビジュアルアートを横断し、多様なメディアを駆使するチェン・ティエンジュオと、国際的な活躍も目覚ましいダンサー、振付家のシコ・スティヤント。リサーチで訪れたラマレラ村で、ふたりは強いインスピレーションを受けた。

インドネシアのレンバタ島に位置するラマレラ村では、現在でも伝統的な漁法で捕鯨が営まれている。海の恵みを祖先からの贈り物であると考えている村の人々にとって、捕鯨は単に食料を得る術というだけではない。漁期には手厚い儀式がさまざまに行われることからわかるように、鯨は彼らの信仰、社会、文化と深く結びつき、共生してきた。しかし、容赦なく押し寄せる近代化の波が、その伝統の存続を危うくしている。

『オーシャン・ケージ』の観客は、映像、オブジェクト、音楽に満たされた空間に足を踏み入れる。固定された客席はない。スティヤントの踊りを間近に見ているうちに、伝統と現代がマッシュアップされた儀式を構成する一員となっていく。わたしたちの祈りに応えて、鯨は姿をあらわすだろうか。

チェン・ティエンジュオ Tianzhuo Chen

1985年中国、北京生まれ。2022年8月よりベルリンを拠点に活動。ロンドンのセントラル・セント・マーチンズでグラフィックデザインの学位、チェルシー・カレッジ・オブ・アートでファインアートの修士号を取得。チェンの作品は、伝統と現代性、ハイカルチャーとサブカルチャーを組み合わせ、美術、舞台芸術、ライブアート、音楽、映像といった分野の間を自在に行き来する。自身のレーベル Asian Dope Boys ではクラブシリーズを主催。チェンのオブジェクトやパフォーマンス、映像作品は、カラフルでグロテスク、キッシュなイメージを用いてアジアの心霊主義やLGBTIQ+、イコノグラフィー、舞踏、ヴォーギングやクラブカルチャーについて直接的に言及する。チェンの作品は、台本に沿ったストーリーや思考、政治的声明と、現代のクラブ文化やカウンターカルチャーに関わるセルフ・エンパワメントの儀礼化された出来事とを織り交ぜる。KYOTO EXPERIMENT 2021 AUTUMN ではインスタレーション作品『牧羊人』を発表。最近の舞台作品に、『An Atypical Brain Damage』(steirischer herbst, グラーツ, 2018/他) 『Ishvara』(ウィーン芸術週間, 2017 / Theater der Welt Hamburg, 2017/他) がある。最近の個展には、『The Dust』(Dark Mofo, ホバート, タスマニア, 2021 / トランスメディアール, ベルリン, 2022), 『Illuminated Spirits』(TANK, 上海, 2023) がある。



シコ・スティヤント Siko Setyanto

インドネシア、ジャカルタ出身のダンサー・振付家。9歳のときにインドネシア、ソロのカンパニー Sanggar Maniratarini で Wied Sendjayani のもとで学び始める。スティヤントが育ったインドネシア文化の多様性や、幼少期に学んだジャズとバレエの経験は、彼のダンスや振付語彙に大きな影響を与え、強力な基盤となった。コンテンポラリーダンスについての情報交換ができるスペースや、インドネシアのダンサーたちのネットワーク、ダンサーのためのトレーニングセンター、そして若手振付家を支援する方法の創出を目的として、DRKR Kolektif を設立。2020年には、共同で Dansity Dance Company を設立。現在は、韓国ソウルの Eun Me Ahn Company でダンサー/振付家として活動するほか、Gabber Modus Operandi とも定期的に活動している。2020年から2023年まで、Jakarta Arts Council Dance Committee のメンバーを務めた。



©Peiyu Shen

余越保子／愛知県芸術劇場

[京都（日本） | パフォーマンス]

リンチ（戯曲）

10.25（金）16:30 ★

10.26（土）16:30

10.27（日）15:30

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場 京都芸術センター 講堂

上演時間 100分



©Kai Maetani

* 未就学児入場不可。

身体と近代のあいだの摩擦

上演不可能と言われた戯曲への応答

「戯曲とは何か？」をテーマに掲げるAAF戯曲賞。第20回の大賞を受賞した羽鳥ヨダ嘉郎による『リンチ（戯曲）』は、「あなたにみられている必要はない。耳の頭の上が平面につく。」という謎めいたト書きから始まり、主体や意味をすぐにはつかみとれない台詞が続く。上演への安易な想像をはねのけ、読者をはぐらかしていくこの問題作に、ニューヨークで長く活動し二度のベッシー賞受賞経験を持つ振付家・演出家の余越保子が挑んだ。2022年に高い評価を得た愛知県芸術劇場での初演を経て、今回はいよいよ関西で初上演となる。

余越の上演では、戯曲の演劇的な再現は目指されない。極めてダンス的なアプローチだ。羽鳥が戯曲に埋め込んだ日本の近現代史への鋭い眼差しにに応じるように、余越自身も含む出演者のプライベートな経験が引用され、近代国家という制度が逃れがたくそなえる支配／被支配の構造が身体をもって明らかにされる。そしてダンサーたちは戯曲の言葉との緊張関係そのものを踊る。ここで問い直されているのは、戯曲か？ 近代か？ それとも、ダンス？

余越保子 Yasuko Yokoshi

振付・演出家、映像作家。広島県出身。1996年より2015年までニューヨーク、東京、アムステルダムを拠点に数々のダンスパフォーマンス、映像作品を手がける。2015年より活動の拠点を京都に移す。

ジョン・サイモン・グッゲンハイム・メモリアル・フェロー、Foundation for Contemporary Arts Award、ベッシー賞最優秀作品賞を2年連続受賞。ニューヨーク市芸術家フェロー（振付部門）、クリエイティブ・キャピタル授与者。2011-2013年のNew York Live Arts (NYLA)の初代レジデンスアーティストとして『BELL』を制作上演。

文筆活動では、1990年に森鷗外記念事業「北九州市自分史文学賞」にて大賞を受賞、学習研究社より『一生に一度だけの』が出版された。自主映画『Hangman Takuzo』（首くり拷問、黒沢美香、川村浪子主演）は、神戸映画資料館、イメージフォーラム、m h project (NY)、横浜 BankARTにて上映。



©Miana Jun

ジャハ・クー / CAMPO [ヘント (ベルギー)・ソウル (韓国) | パフォーマンス] 日本初演

ハリボー・キムチ

Haribo Kimchi

10.25 (金) 19:00 ★

10.26 (土) 14:30

10.27 (日) 18:00

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場 romeシアター京都 ノースホール

上演時間 60分



©Bea Borgers

*開演後は途中入場不可。14歳以上推奨。

立ちのぼる香り、包丁の音、炎の熱気
屋台に憩う魂たちのおしゃべり

東アジアにおける帝国主義を掘り下げた三部作で国際的に高い評価を受けたジャハ・クー。自身の手による音楽、映像、パフォーマンスを用いて政治と歴史、そして個人史が交錯する作品を制作してきたクーが繰り出す新作『ハリボー キムチ』は、近年、欧米諸国で人気が高まりつつある韓国料理がモチーフだ。人々の生活に根ざす食文化は、その土地のアイデンティティでもあり、社会の構造を映す鏡でもある。

クーは私たちが料理の旅へといざなう。舞台は韓国の夜の路上に点在しているポジャンマチャ（屋台）のひとつ。鼻にツンとくる不条理なエピソードの数々を交えながら、クーは自らのヨーロッパ移住にまつわる身の上を語る。キムチ文化の進化や海藻スープの重要性について洞察を示し、また、いつまでも異邦人であることの気まずい酸っぱさや、ふるさと味の深い旨味を語る先には。

ジャハ・クー Jaha Koo

韓国出身の舞台作家、パフォーマンス作家、作曲家、映像作家。韓国芸術総合学校で舞台芸術学を専攻し、学士（2011）、その後アムステルダムの DAS Theatre で修士号を取得（2016）。クーの芸術的実践は、マルチメディアとパフォーマンスの間を行き来し、自身の音楽、映像、テキスト、ロボットのオブジェが含まれている。最新プロジェクトである「Hamartia Trilogy」は、『Lolling and Rolling』（2015年）、『Cuckoo』（2017年）、『The History of Korean Western Theatre』（2020年）から成る。この三部作では、東アジアの政治状況や被植民地の歴史、文化的アイデンティティの長期的な探求が表されている。テーマとしては、韓国社会における構造的な問題や、逃れ得ない過去が今日の私たちの生活に悲劇的な影響を与えるさまに焦点を当てる。これまでに、Zürcher Theater Spektakel（スイス）、クンステン・フェスティバル・デザール（ブリュッセル、ベルギー）、国家两厅院（台北、台湾）、ソウル・パフォーマンス・フェスティバル（韓国）、PuSh International Performing Arts Festival（バンクーバー、カナダ）、OzAsia Festival（アデレード、オーストラリア）など世界中の劇場やフェスティバルで作品を発表してきた。



©Bea Borgers

アミール・レザ・コヘスタニ／メヘル・シアター・グループ [テヘラン (イラン) | 演劇] 日本初演

ブラインド・ランナー

Blind Runner

10.26 (土) 19:00 ★

10.27 (日) 13:30

★ポスト・パフォーマンス・トーク

 会場  京都府立府民ホール“アルティ”

 上演時間  60分


©Benjamin Krieg

* 開演後は途中入場不可。小学生以下入場不可。

 始発まで5時間半、対岸まで38km
 ふたりはともに走り出す

一週間に一度、夫は政治犯として収監されている妻を訪ねる。監視下の面会で交わされる夫婦の会話はおどかしくすれ違う。刑務所の中で妻は意気を挫かれ、自由の身の夫は孤独に苛まれているのだ。妻は夫に、とある盲目の女性の伴走者として、パリで行われるレースに参加しないかと持ちかけた。そのレースを走り終えたあと、夫は盲目の女性ともうひとつのレースに伴走することを決意する。

イランの現代史を見つめる作品を多く発表してきたアミール・レザ・コヘスタニによる本作は、逮捕されたジャーナリストの解放を求める運動や、終電のあと始発が出るまでの間に走破すべく難民が命を賭して突入する夜の海底トンネルなど、走ることにまつわる実話が巧みに織りこまれている。この世界が抱える多くの問題と共鳴する物語の重層性は、しかし、徹底的に切り詰められた要素で描かれる。

2人の俳優は、映像とオーバーラップしながら、舞台上を何度も何度も折り返して走る。ただ走ることにこそ、自由が賭けられているかのように。

アミール・レザ・コヘスタニ Amir Reza Koohestani

1978年生まれ。イラン出身の劇作家、演出家。16歳で地元の新報に短編小説を発表する。映画に興味を持ち、監督と撮影技術を学ぶコースを受講し、未完の映像2作品を制作。短い期間パフォーマーとして活動したのち、メヘル・シアター・グループの脚本執筆に専念する。2012年、マニ・ハギギと共同で脚本を執筆した映画『Modest Reception』がベルリン国際映画祭の最優秀アジア映画賞を受賞。翌年には、Festival actoral (マルセイユ) より新作の執筆依頼を受け、『Timeloss』を制作。2014年10月から2015年3月のシュトゥットガルト Akademie Schloss Solitude でのレジデンシー滞在中に、『Hearing』を書き上げる。その後、時間と記憶についての三部作(『Timeloss』、『Hearing』、『Summerless』)の第3部となる『Summerless』をクンステン・フェスティバル・デザール (ブリュッセル、2018) で初演。2年近くツアーを行っていなかったが、2023年5月には、自身のカンパニーとともに『ブラインド・ランナー』を制作した。KYOTO EXPERIMENT には、2019年以來の参加となる。



©Bea Borgers

KYOTO EXPERIMENT 2024
×
ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ & アーペル
プログラム

2022年より、KYOTO EXPERIMENT はハイジュエリーメゾン、ヴァン クリーフ&アーペルが2020年に設立した、
創造・継承・教育の3つの価値でダンスに取り組むプロジェクト

「ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ & アーペル」とコラボレーションをスタートしました。
3年目となる今回は、「ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ & アーペル フェスティバル」と協働で、
5組のアーティストによる6つのダンス作品を紹介します。

主催：KYOTO EXPERIMENT、ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ & アーペル
(dancereflections-vanclleefarpels.com)

DANCE BY
REFLECTIONS
VAN CLEEF & ARPELS

アレックスandro・シャッローニ [ローマ(イタリア) | ダンス]

日本初演

DANCE REFLECTIONS BY VAN GLEEF & ARPELS

ラストダンスは私に

Save the Last Dance for Me

10.5 (土) 16:00

10.6 (日) 16:00 ★

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場 京都芸術センター 講堂

上演時間 30 分

* 開演後は途中入場不可。



©MAK

旋回するふたりの男性

上がる速度と息、終わらないダンス

ダンスにおけるこれまでの功績を評価され、ヴェネツィア・ビエンナーレの金獅子功労賞を受賞したアレックスandro・シャッローニが出会った時にはすでに、そのダンスは消滅の危機に瀕していた。

公の場で未婚の男女が共に踊ることを許されなかった 1900 年代初頭のポローニャで、男性のみによって踊られはじめたポルカ・キナータ。女性にアピールするべく回転の速さがこぞって競われたアクロバティックなそのダンスは、時代が下るにつれ男女のダンスが許容されていったことと難易度の高さがあいまって徐々に廃れていった。オンラインに投稿された動画をきっかけにシャッローニがリサーチを始めた時点での踊り手は、わずか数名だったという。シャッローニはこの失われつつあるダンスに魅入られ、パフォーマンスとワークショップからなるポルカ・キナータ復活に向けてのプロジェクトを開始した。

2 人のダンサーは、膝を曲げ、腰を落とし、見つめ合ったまま回転する。互いの腕をつかむ力が少しでもゆるんだら倒れ込んでしまうに違いない、というスリルとは裏腹に、わたしたちはダンサーたちの笑みを見る。つまり、相手を信じ、自らの体重を委ね、踊ることの喜びを。

出演：ジャンマリア・ボルジッロ、ジョバンフランチェスコ・ジャンニーニ

アレックスandro・シャッローニ Alessandro Sciarroni

2007 年より、舞台芸術と現代アートを融合したパフォーマンス作品を創作しているアーティスト。美術を学び、舞台芸術の実績を豊富に持つシャッローニは、コンセプチュアルなアプローチと、演劇やダンス、スポーツ、サーカス芸術などの分野から派生したテクニック・実践を作品に取り入れている。ダンサーの身体的持久力を試すような行為の反復を基礎としながら、時間の異なる次元を見つめ、観客と演者の共感的な関係を考察することを通して、演じるという行為への強迫観念、恐怖、もろさを明らかにしようと試みている。これまでさまざまな国際アートプロジェクトやネットワークに招聘され、世界中で作品を発表している。2019 年にヴェネチア・ビエンナーレ・ダンス部門金獅子功労賞を受賞。パリのサン・キャトルおよびミラノ・トリエンナーレ・テアトロ 2022-2024 のアソシエイト・アーティスト。



©Marche Teatro

(ラ) オールド × ローン with マルセイユ国立バレエ団

[マルセイユ (フランス) | ダンス] 日本初演

DANCE REFLECTIONS BY VAN CLEEF & ARPELS

ルーム・ウィズ・ア・ヴュー

Room with a View

10.5 (土) 18:00

10.6 (日) 18:00 ★

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場 romeシアター京都 サウスホール

上演時間 70 分



©Cyril Moreau

*12 歳以上推奨。刺激の強い描写が一部含まれます。

集団は熱狂し、衝突し
未来を問う共同戦線へ躍り出る

現代のカルチャーを貪欲に取り込みながら「ポストインターネットダンス」を追求する (ラ) オールドには、マドンナ、スパイク・ジョーンズ、バーバリーといった各界のビッグネームやブランドからコラボレーションのラブコールが尽きない。異なる得意分野をもつ 3 人によって構成されるこのアーティスト・コレクティブは、フランスのエレクトロニック・ミュージックの第一人者であるローンとのコラボレーションにより、自らが芸術監督をつとめるマルセイユ国立バレエ団と共に、終末的な風景からの解放を謳いあげる『ルーム・ウィズ・ア・ヴュー』を完成させた。

舞台は大理石の採石場。その一角をくり抜いた白い部屋でいまや最高潮を迎えようとしているレイブパーティーの場面で本作は幕を開ける。享乐的な時間が終わると、若者たちが抱える鬱屈は暴力となって噴き出し、カップルたちは自暴自棄のように互いを傷つけあってしまう。荒廃のさなかに立ち尽くす彼らは、連帯と抵抗の身ぶりを少しずつ獲得していく――。

マルセイユ国立バレエ団の 11 カ国 19 人のダンサーたちからほとばしる圧倒的なエネルギーと、彼らと全編にわたって並走するローンの音楽が分かちがたく融合する。その先に (ラ) オールドが示す希望の姿とは。

(ラ) オールド (LA) HORDE

(ラ) オールドはマリーヌ・ブルッティ、ジョナタン・デュブルワー、アルチュール・アレルの 3 名によって 2013 年に結成されたアーティスト・コレクティブ。3 人は舞台芸術や現代アートの分野を中心に、さまざまな芸術分野のコードに疑問を投げかけている。オンライン上で展開されるダンスと身体の新たな循環と表象のダイナミクスを探求した結果、彼らは「ポストインターネットダンス」というコンセプトに取り組むようになった。2019 年よりマルセイユ国立バレエ団の芸術監督を務め、動きの中の身体にフォーカスした振付作品、映画、ビデオインスタレーション、パフォーマンスを創作している。(ラ) オールドはダンスの政治的要素を問いただし、レイブから伝統的なダンス、ジャンプスタイルまで、多様な民衆蜂起の振付形式をマッピングする。フォーマットを多様化することで、(ラ) オールドはこの新しい領域が提供するほぼ無限の偶然性に疑問を投げかけ、彼らが協働するコミュニティの反乱に対して、ヒエラルキーに反するヘテラルキーな方法で多様な視点を提案する。



©Frédéric Stuci

ローン Rone

1980年生まれ。パリを拠点に活動するエルワン・カステックス（別名：Rone）は、フランスの電子音楽プロデューサー／アーティスト。2007年に活動を開始し、以来電子音楽の境界を踏み越える表現を追求してきた。さまざまな分野におけるフランス国内外の現代アーティストと数多くのコラボレーションを行っており、その中には、作家のアラン・ダマジオ、コレクティブの（ラ）オールドの監督下でのマルセイユ国立バレエ団、映画監督のジャック・オーディアール、フレデリック・ファルッチ、スパイク・ジョーンズなどがある。これまでにリリースされた6つのスタジオアルバムはどれも多才であり、それによってローンは電子音楽シーンにおけるキーパーソンとなったほか、長編映画のサウンドトラックでセザール賞最優秀作曲賞、カンヌ・サウンドトラック賞最優秀映画音楽賞、Prix des Indés で最優秀ライブショー賞などの重要な賞を数多く受賞している。



©Cha Gonzalez

マルセイユ国立バレエ団 Ballet national de Marseille

振付家のローラン・プティは、1972年に市長ガストン・デフェールによる招聘を受けてマルセイユバレエ団を創設した。これはマルセイユにおける公立オペラ劇場の再活性化を目指したものだ。プティは、ファッションデザイナーのイヴ・サンローラン、ダンサーのミハイル・バリシニコフ、画家のキース・ヘリングやデイヴィッド・ホックニーなどのアーティストとコラボレーションを行い、そのキャリアを通してクラシックバレエとコンテンポラリーダンスの枠組みを揺さぶり続けた。1981年にマルセイユ国立バレエ団となり、その後1984年にバレエ団は国立振付センターとなった。歴代の芸術監督は順に、マリ＝クロード・ピエトラガラ（1998-2004）、フレデリック・フラマン（2004-2014）、エミオ・グレコとピーター・C・ショルテン（2015-2019）である。2019年9月からは、コレクティブの（ラ）オールドが芸術監督を務める。マルセイユ国立バレエ団は現在、16カ国から集まった23人のダンサーで構成されている。



©Maria Baranova

オラ・マチェイエフスカ [プリジアク (フランス)・ポーランド | ダンス] 日本初演

DANCE REFLECTIONS BY VAN CLEEF & ARPELS

ボンビックス・モリ

Bombyx Mori

10.11 (金) 19:00

10.12 (土) 16:30 ★

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場 rome シアター京都 ノースホール

上演時間 60 分



Bombyx Mori, Dance Reflections by Van Cleef & Arpels Festival in Hong Kong, 2023, co-presented with French May Art Festival. ©Eric Hong

ロイ・フラー：リサーチ

Loie Fuller: Research

10.14 (月・祝) 18:30

会場 京都芸術センター 講堂

上演時間 40 分



Loie Fuller: Research, Dance Reflections by Van Cleef & Arpels Festival in Hong Kong, 2023, co-presented with French May Art Festival and M+. ©Eric Hong

人と絹のメタモルフォーシス

いま、伝説が新たに読み直される

アール・ヌーヴォーの時代のパリで、モダンダンスのパイオニアとして多くのアーティストたちにインスピレーションを与えたロイ・フラール（1862-1928）。全身をすっぽりと覆う絹の衣装を自在に操り、時に炎のように、蝶のように、花のように、と、めくるめくフォルムの変容で観客の想像をかきたてた「サーペントインダンス」は一世を風靡した。

フラールが残したこのダンス史の伝説に、現代から応答したのが振付家のオラ・マチェイエフスカだ。真摯なりサーチと身体を用いたアーカイブの実践から、2011年に観客の間近でソロパフォーマンスを展開する『ロイ・フラール：リサーチ』を発表した。その後、この作品を3人のダンサーによる劇場型の『ボンビックス・モリ』へと展開させた。『ボンビックス・モリ』は、この象徴的な「サーペントインダンス」の物質性に注目し、次第に緊張感を高めながら、この夢幻的なダンスを丁寧に紐解いていくことで新たな解釈を提案する。身体、物質性、サウンドが紡ぎあわさることでダンス史との対話が生み出される本作は、アイコンとしてのフラールの神話とそのパラドックスに向き合う。

オラ・マチェイエフスカ Ola Maciejewska

振付家・ダンサー。緻密なりサーチに基づいた、ダンスに対する学際的なアプローチが特徴。ダンスとビジュアル・アートの融合に取り組む中で、ダンスの歴史を批評的に読み解く。2013年からは、1890年代にロイ・フラールが考案し、一世を風靡した「サーペントインダンス」の再解釈に基づく独自の振付を展開している。フラールによって考案された蛇のようなダンスに焦点を当てた一連の作品は、メタモルフォーゼ、共感覚、具現化のハイブリッド性を見る者にもたらす。

2016-2018年、ノルマンディー・カーン国立振付センターでアソシエイト・アーティストを務めた。2020年には、ピナ・バウシュ財団のアーカイブ・プロジェクトでロルフ・ボルツィクの舞台美術に関する研究に取り組む。2022年、ロバート・ウィルソンが設立したウォーターミル・センターからフェローシップを受けている。ジュネーヴ造形芸術大学（HEAD）、リモージュ国立高等美術学校、フランス国立ダンスセンター（CND）を筆頭に、自身の研究を共有するためのフレームワークを構築している。



©Ola Maciejewska Studio

クリスチャン・リゾー [モンペリエ (フランス) | ダンス]

日本初演

DANCE REFLECTIONS BY VAN CLEEF & ARPELS

D'après une histoire vraie—本当にあった話から

10.12 (土) 19:00

10.13 (日) 19:00 ★

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場 京都芸術劇場 春秋座

上演時間 60分

* 未就学児入場不可。



©Marc Domage

8人のダンサーとツインドラム

静謐からうねるような興奮へ

半袖のシャツとデニムパンツ、裸足。薄暗い舞台にあらわれた8人の男たちは、静かなユニゾンから踊りをはじめ。ほどなくして2人のドラマーが彼らに合流する。ダンサーは、ふたりで、あるいは群れて同期しあい、かと思えば、ふと群れから外れたひとりにもなる。合流と離散、反復と展開は目まぐるしくも緊密に組み立てられていて、ひとときも目を離す隙がない。そして、端正な構成の中にありながら、彼らの身体はふつつつと熱を帯び、興奮が脈打ち――。

クリスチャン・リゾーは、舞台芸術のみならず、造形美術、音楽、ファッションなど幅広い分野に通じ、マルチな才能を発揮してヨーロッパのアートシーンを牽引してきた。現在は国際振付研究所 (ICI) を芸術監督として指揮する、ヨーロッパのコンテンポラリーダンス界の重鎮だ。

2013年にアヴィニョン演劇祭で初演された本作の原点は、そのまた更に10年ほど前、リゾーがイスタンブールで男性の踊り手たちによるダンスを目撃し、鮮烈な印象を抱いたことに遡る。あるダンスが、時を隔てて別のダンスの誕生を促していく。連続と続いてきたダンスという営みの一瞬間を、わたしたちも目撃する。

クリスチャン・リゾー Christian Rizzo

造形美術家、デザイナー、ミュージシャン、振付家、舞台美術家、オペラの演出家などマルチな才能を持つアーティスト。クリスチャン・リゾーはロックバンドを結成し、ファッションブランドを立ち上げるなど、ツールーズでアーティストとしてキャリアをスタート。その後、ニースのヴィラ・アルソン国立高等芸術学校でビジュアル・アートを学ぶ。1996年にアソシアシオン・フラジルを設立し、オペラ、ファッション、ビジュアル・アートなどのプロジェクトとともにパフォーマンスやダンスなど40以上の作品を発表。フランス国内外の美術・ダンス専門教育機関で教鞭をとる。2015年より国際振付研究所 (ICI) の芸術監督を務める。抽象性からフィクションが生まれる物語において、身体と空間における柔軟性と緊張関係を表現すべく探求している。



©ICI-CCN Denise Oliver Fierro

マチルド・モニエ & ドミニク・フィガレラ

[モンペリエ (フランス) | ダンス] 日本初演

DANCE REFLECTIONS BY VAN CLEEF & ARPELS

ソープオペラ、インスタレーション

Soapéra, an installation

10.18 (金) 19:00

10.19 (土) 19:00

10.20 (日) 16:00 ★

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場 romeシアター京都 ノースホール

上演時間 45分



©Marc Coudrais

触れればこわれる空気の輪郭
時間と空間のうたかた

多様なジャンルのアーティストとコラボレーションを重ね、フランスで最も重要な振付家のひとりであるマチルド・モニエと、ヴィジュアルアーティストのドミニク・フィガレラの共同作業は、舞台上で絵画が果たしてきた「背景」という伝統的な役割を問うところからはじまった。初のコラボレーションとして2010年に発表した『ソープオペラ』の後も、ふたりは表現のさらなる深化を目指しクリエイションを続けた。そして、2014年に制作された『ソープオペラ、インスタレーション』は、ダンスと美術が出会いなおす長い対話の先にあらわれた、はかなくも原理的な時間とかたちである。

降り積もり、舞台上の空間を支配しているのは、巨大な泡の塊だ。ダンサーたちは、視覚的な量に対して驚くほど軽いこの素材と、慎重にコンタクトしていく。最初は泡にうずもれ溺れているように、めくりあげ抱くように、そしてちぎってまどうように。泡に動きが導かれ、ダンサーが泡を彫刻する。しかし、どれだけ注意深く触れても、泡は弾けてしまう。やがて、わずかな痕跡と身体だけが残される。

マチルド・モニエ Mathilde Monnier

フランスをはじめ国際的なコンテンポラリーダンスシーンを代表する振付家のひとり。1994年にモンペリエ国立振付センター (ICI-CCN) の芸術監督に就任したことをきっかけに、ジャン＝リュック・ナンシー、クリスティーヌ・アング、ラ・リボット、ハイナー・ゲッベルスなどの様々な芸術分野の第一人者とのコラボレーションをはじめ。これまでに創作された50を超える作品は、アヴィニョン演劇祭やパリ市立劇場をはじめ、世界各地で上演され、数々の賞 (文化省賞、SACD賞) を授与している。フランス国立ダンスセンター (CND) のディレクターを経て、2019年に自身の創作活動を再開し、ラ・リボット、ティアゴ・ロドリゲスとの共同制作で作品を発表している。



©Marc Coudrais

ドミニク・フィガレラ Dominique Figarella

1966年生まれ。フランス出身のビジュアルアーティスト。モンペリエ拠点・在住。パリの高等美術学校エコール・デ・ポザールで教鞭をとる。フィガレラの芸術実践では、ジェスチャー、アクシデント、しぶきや足跡などの痕跡、さらには物体までもが彼の作品として組み込まれていく。ヴィラ・アルソン卒業。フランス国内、ヨーロッパ、アメリカで定期的に作品を発表している。これまでに、La Station (ニース、フランス、2008)、Musée de Sérignan (フランス、2009)、Carré Sainte Anne (モンペリエ、フランス、2009)、LiFE (サン＝ナゼール、フランス、2010)、Villa Tamaris (ラ・セーヌ＝シュル＝メール、フランス、2019) で個展を開催。2022年から2024年にかけては、Espace d'Art Concret (ムアン＝サルトゥー、フランス)、パリ市立近代美術館 (フランス)、Musée d'art Moderne de Ceret (フランス)、リヨン現代美術館 (フランス) で作品を発表している。



ワークショップ

KYOTO EXPERIMENT 2024 と「ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ&アーペル」による共同主催プログラムでは、公演前後に振付家やパフォーマーによるワークショップが行われます。

※各ワークショップの参加費は 1,000 円。日本語の逐次通訳が入ります。

DANCE BY
REFLECTIONS
VAN CLEEF & ARPELS

日時	作品名	ファシリテーター	会場	WS 対象者
10.4 (金) 11:00-13:00	ルーム・ウィズ・ア・ビュー	ナタン・ゴンベール 佐藤亜耶	京都芸術センター フリースペース	どなたでもご参加 いただけます
10.6 (日) 13:00-15:00	ラストダンスは私に	ジャンマリア・ボルジッロ ジョバンフランチェスコ・ ジャンニーニ	京都芸術センター 講堂	どなたでもご参加 いただけます
10.9 (水) 19:00-21:00	ボンビックス・モリ ロイ・フラー：リサーチ	リア・マロイエヴィッチ、 ジャン・レスカ、 マチェイ・サド	京都芸術センター フリースペース	どなたでもご参加 いただけます
10.13 (日) 10:00-12:00	D'après une histoire vraie —本当にあった話から	クリスチャン・リゾー	京都芸術劇場 春秋座	何らかのトレーニ ングを受けてい るダンサーやパ フォーマー、ダン スを学ぶ学生
10.19 (土) 11:00-17:00	ソープオペラ、インスタレーション	マチルド・モニエ	京都芸術センター フリースペース	ダンス経験者

📖 Super Knowledge for the Future [SKF]

📖 イベント 『リンチ（戯曲）』を読む会

読書会

9.11（水）シーン1、9.18（水）シーン2

各日 18:00-20:00(20:00-21:00は自由参加でディスカッション)

会場：オンライン

ゲスト：細馬宏通（早稲田大学文学学術院教授）

聞き手：山本麦子（プロデューサー）

料金：無料



©Kai Maetani

本フェスティバルの『リンチ（戯曲）』公演に先駆けて、第20回AAF戯曲賞を受賞した羽鳥ヨダ嘉郎による同名戯曲を読む会をオンラインで開催。さまざまな要素が埋め込まれ、一読するだけでは上演不可能のように感じるこの戯曲。実際に声に出してテキストを読んだ後、行動学者の細馬宏通をゲストに迎え、参加者の皆さんと感じたこと、考えたことを話し合ってみよう。今回は2日間に分けて、戯曲のシーン1とシーン2を読んでいく。愛知県芸術劇場のウェブサイトから、事前に戯曲を読んでもみることも可能。

📖 イベント

踊りの継承について：

アレックスandro・シャッローニ × 交野ヶ原交野節・おどり保存会

10.4（金）18:30-20:00

会場：京都芸術センター 大広間

ゲスト：アレックスandro・シャッローニ、ジャンマリア・ボルツジロ、
ジョバンフランチェスコ・ジャンニーニ、交野ヶ原交野節・おどり保存会

聞き手：KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター

言語：日本語、イタリア語（逐次通訳付き）

料金：無料

トーク

DANCE REFLECTIONS BY VAN CLEEF & ARPELS
ISTITUTO italiano di CULTURA ONAMI



©Passages Transfestival-Metz 2023 /
Photo: Raoul Gilibert

アレックスandro・シャッローニが今回発表する『ラストダンスは私に』は、イタリアの伝統的フォークダンス「ポルカ・キナータ」を甦らせ、継承することを上演目的としている。本トークでは、シャッローニと2名のダンサーが、14世紀に遡るルーツを持ち、現代の河内音頭の源流とされる「交野節（かたのぶし）」を次世代に繋げる活動をしている保存会メンバーと対話を行う。これらのフォークダンスがなぜ人々を惹きつけるのか、また、歴史的なダンスをコンテンポラリーの文脈に継承していくことの重要性について考えていく。

主催：KYOTO EXPERIMENT、ダンスリフレクションズ by ヴァン クリーフ & アーベル、イタリア文化会館・大阪

📖 えーっとトーク①

トーク

食のえーっと～おもてなしとミスコミュニケーション～

10.10 (木) 18:30-20:00

会場：BnA Alter Museum

ゲスト：阿良田麻里子 (立命館大学 食マネジメント学部・食マネジメント研究科 教授)

聞き手：KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター

料金：1,000 円 (1ドリンク付き)



阿良田麻里子

KYOTO EXPERIMENT 2024 のキーワード「えーっと えーっと」を端緒に、社会や文化について考えるトークの第1弾。文化人類学や言語人類学の視点から、多民族国家インドネシアの食文化を研究してきた阿良田麻里子をゲストに、“食のおもてなし”におけるコミュニケーションについて考える。ある文化では「良い」おもてなしが、別の文化では違った受け取り方になることも？ 食について「えーっと」と立ち止まる時、そこにどんなコミュニケーションとミスコミュニケーションが見えてくるだろうか。食習慣や生活形式、宗教や文化的価値観などの違いがもたらす「食」の多様性を、さまざまな視点から見つめてみたい。

📖 Future Dictionary

参加型展覧会

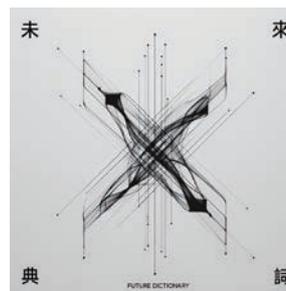
10.12 (土) 11:30-17:00

会場：京都芸術センター 大広間

ファシリテーター：オフエリア・ジアダイ・ホアン (キュレーター、アーティスト、

リサーチャー [上海])

料金：無料



©AI 作成

「Future Dictionary (フューチャー・ディクショナリー)」は、上海を拠点とするキュレーター、アーティスト、リサーチャーのオフエリア・ジアダイ・ホアンが2023年に始動し、KYOTO EXPERIMENTと協働で進めてきたプロジェクト。アジア圏のアーティストやキュレーターと共に、世界の共通言語である英語以外の言語におけるアート概念と、それにつながるローカルな芸術の実践について考えてきた。今回、これまでの活動記録や参加メンバーによる思索メモを、1日限りの展覧会を通して紹介する。当日 11:30～13:00 はホアンが在廊。皆さんが感じたこと、考えたことをぜひ聞かせてほしい。

企画：オフエリア・ジアダイ・ホアン
協力：KYOTO EXPERIMENT

📖 えーっとトーク②「無駄」の研究 2024

トーク

10.17 (木) 18:30-20:00

会場：BnA Alter Museum

ゲスト：岡田美智男 (豊橋技術科学大学 情報・知能工学系教授)、吉岡洋 (美学者)

聞き手：KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター

料金：1,000 円 (1ドリンク付き)



岡田美智男



吉岡洋

フェスティバルのキーワード「えーっと えーっと」にちなんだトークの第2弾として、美学者の吉岡洋と〈弱いロボット〉の開発で知られる岡田美智男の公開対談を行う。ひとりでは何もできないロボットの開発を起点に、人との関係や、社会のあり方を探求してきた岡田氏。その知見を交えながら、とかく効率と短期的な成果を求められる現代社会において、一見その傾向に逆行するような「無駄」な回り道が内包するクリエイティブな側面をポジティブに思考し、その可能性を検討する。

📖 えーっとトーク③ 不利益とは？

トーク



10.19 (土) 10:00-12:00

会場：京都芸術センター ミーティングルーム 2

ゲスト：川上浩司 (京都先端科学大学工学部教授)

聞き手：聞き手：KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター

料金：無料

「えーっと えーっと」のキーワードを端緒に、現代社会について考えるトークの第3弾。何かを思い出そうとする時などに、つい発してしまう「えーっと」。この言葉自体に機能はないとされるが、果たして本当にそうだろうか。一見役に立たないように見えるものに、大切な何かがあるのかもしれない!? 本トークではそんな仮説を、「不利益」(不便だからこそ、良いことがある)を提唱し、システム工学を通して探求している川上浩司をゲストに迎え、参加者の皆さんとともに考えてみたい。わたしたちの身近にある、ささやかだけど大切な不利益とは？

📖 『ガーダ パレスチナの詩』上映会

上映会+レクチャー

× パレスチナ近現代史レクチャー

10.24 (木) 18:00-21:30

会場：京都市内

ゲスト：古居みずえ (ジャーナリスト、映画監督)、

岡真理 (早稲田大学文学学術院教授、現代アラブ文学・パレスチナ問題)

言語：日本語 (『ガーダ パレスチナの詩』はアラビア語・英語音声、日本語字幕)

料金：2,000 円 ※入場料収入は全てパレスチナ・ガザ緊急支援に寄付します。



©2005 安岡フィルムズ / アジアプレス・インターナショナル

パレスチナの文化や歴史、政治を通して、現在起こっているパレスチナにおける人道危機について学ぶドキュメンタリー映画上映会とレクチャー。早稲田大学文学学術院教授で、『ガザとは何か』著者の岡真理によるパレスチナ近現代史についてのレクチャー後、ジャーナリストでドキュメンタリー映画監督の古居みずえによる『ガーダ パレスチナの詩』を上映。ガザ地区難民キャンプで生まれ育ったパレスチナ人女性、ガーダの生きざまを描く本作は、23歳から35歳までの12年にわたる彼女の人生のさまざまな節目や、パレスチナ人としてのアイデンティティの目覚めを追っている。上映後、古居と岡によるトークを開催。

🗨️ ジャハ・クー アーティスト・トーク トーク



©Bea Borgers

10.26 (土) 16:00-17:00

会場：ロームシアター京都 ノースホール ロビー

ゲスト：ジャハ・クー

聞き手：KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター

言語：日本語、韓国語（逐次通訳あり）

料金：無料

今回、『ハリボー・キムチ』を日本初演するジャハ・クー。今作が日本での初の作品上演となるクーを迎えるこのトークでは、社会的アイデンティティや構造を映し出す鏡でもある「食」をテーマとした本作の制作プロセスや、音楽や映像などのメディアを交差させながら、個人史と政治史を織り交ぜる独自の手法について、本人の言葉で語ってもらう。さらに、東アジアにおける帝国主義を参照しながら創作を続けてきたクーのこれまでの活動やその原点についても聞いていく。

🗨️ KEX ラジオ「コミュニティ・チャンネル」 ラジオ



配信日：10.1 (火)、8 (火)、22 (火)

MC：渡邊裕史 (KYOTO EXPERIMENT)

視聴無料

* Spotify などで配信

KEX ラジオは、Spotify でフェスティバルからさまざまな情報を発信していくラジオプログラム。会期中に配信する番組のひとつ「コミュニティ・チャンネル」では、KYOTO EXPERIMENT スタッフ、渡邊裕史がMCを務め、作品の制作秘話やアーティストの生の声、フェスティバルの様子をご紹介します。“ローカルと舞台芸術”をテーマに、ゲストを迎えたトークも展開します。まずは、Spotify のチャンネル登録を！

🗨️ 批評プロジェクト 2024 公募



©mizuno hiro

メンター：梅山いつき (演劇研究者)

応募締切：11.11 (月) 23:59

対象演目：穴迫信一 x 振子びじん with テンテンコ『スタンドバイミー』

実験的舞台芸術の批評・評論を学ぶプロジェクト。参加要件は、対象演目の『スタンドバイミー』を鑑賞し、レビューを書いて応募すること。ここから選出された応募者(若干名)は演劇研究者の梅山いつきによる個別指導を受け、内容をブラッシュアップすることができる。完成原稿はKYOTO EXPERIMENT のウェブサイトに掲載予定。芸術批評やライティングを学んでみたい人はぜひチャレンジいただきたい。応募要項 及び 前年度の選出者のレビューは、ウェブサイトでご確認を (参加無料)。

主催：京都国際舞台芸術祭実行委員会 [京都市、ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都芸術センター (公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都芸術大学 舞台芸術研究センター、THEATRE E9 KYOTO (一般社団法人アーツシード京都)]
一般社団法人 KYOTO EXPERIMENT
助成：文化芸術活動基盤強化基金 (クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会



Echoes Now

「Echoes Now」は、KYOTO EXPERIMENT が期待する次代のキュレーターとアーティストをショーケース形式で紹介するパフォーマンス・プログラム。活動分野において異なる背景を持つ3名のキュレーターによるプログラムは、注目すべき実験的な表現を展開する国内のアーティストとその作品を紹介する。プログラム名は、これらのアーティストの表現やキュレーターの思考が国内外のアートシーンにコダマすることを期待して「Echoes」、そして「これから期待の」表現であると同時に、「Now」紹介されるべきであろうという、次代の熱量を代弁している。

キュレーター：川口万喜、堤拓也、和田ながら

公演日程：10月17日（木）-18日（金）

会場：京都芸術センター フリースペース

※詳細はKYOTO EXPERIMENT ウェブサイトにてお知らせします。

主催：京都国際舞台芸術祭実行委員会 [京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都芸術大学 舞台芸術研究センター、THEATRE E9 KYOTO（一般社団法人アーツシード京都）]
一般社団法人 KYOTO EXPERIMENT

助成：文化芸術活動基盤強化基金（クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業）| 独立行政法人日本芸術文化振興会



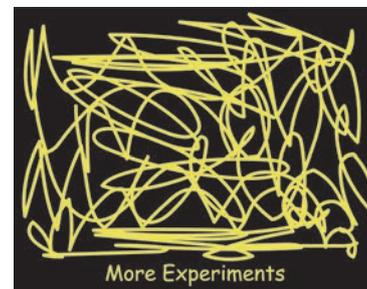
フリンジ 「More Experiments」

フェスティバル開催期間中に京都で発表される作品を一挙に紹介するフリンジ「More Experiments」。演劇・ダンス・音楽・朗読・パフォーマンス・展示など、ジャンル不問の公募で集まった作品を紹介します！

*参加団体は8.2（金）にウェブサイトでお知らせします。

10.1（火）-10.31（木）

会場：京都府内各所



☞ ミーティングポイント

「ミーティングポイント」は、フェスティバルと観客の交流拠点&インフォメーションセンターです。今年は、四条河原町や木屋町にほど近いアートホテル「BnA Alter Museum (ビーエヌエー オルター ミュージウム)」とロームシアター京都の中庭「ローム・スクエア」の2拠点が会期中にオープンします。いずれのミーティングポイントでもマガジンやパンフレットの配布、オリジナルグッズの販売を行うほか、BnA Alter MuseumではSKFのイベントも開催。さらに、BnA Alter Museumでは参加アーティストに関する書籍を集めたライブラリー、Bar タイムにはオリジナルドリンクもお目見えするので、観劇後の休憩にもおすすめです！アーティストやスタッフ、ボランティアなど、フェスティバルに関わるメンバーもどんどん立ち寄るので、ぜひ交流もお楽しみください！

*2会場ともに入場無料。イベントがある日はオープン時間を延長することもあります

☞ ミーティングポイント BnA Alter Museum

〒600-8024 京都市下京区天満町267-1 BnA Alter Museum 1階
(阪急電車「京都河原町」より徒歩6分。京都市バス「河原町松原」より徒歩1分。)

開場日時：10.5（土）-10.27（日）11:00-26:00

*18:00-26:00はBarタイム（要1オーダー/LO 25:30）



BnA Alter Museum
©Tomooki Kengaku

「治まれるアート」をコンセプトに、クリエイティブ集団「BnA」が手がけた10階建てのアートホテル。16名のアーティストが手がけた31部屋に加え、巨大な階段型ギャラリーやショップ、カフェ、バーもあり、多彩な展覧会やイベントを展開中。関西のカルチャー発信のハブとしても注目されています！フェスティバル中に宿泊すると、うれしい特典も。

☞ ミーティングポイント ローム・スクエア

〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13 ロームシアター京都

開場日時：フェスティバル会期中、土・日・祝日の13:00-18:00



ミーティングポイント ローム・スクエア

感想シェアカフェ

観客が感想を語り合う場としての「感想シェアカフェ」を今年も開催します。

感想シェアカフェでは、自分が感じたことを言葉にして語ったり、作品とともに観劇した人の話にじっくりと耳を傾けたりすることで新たな気づきや違った視点、発見をシェア＝「分かち合う」ことを目的としています。Shows プログラムの公演終了後に開催し、集まった人たちと感想を話合います。共通の作品を体験した人たちとの対話を通して、鑑賞者だからこそ見いだせる作品の価値を分かち合う時間をお楽しみください。

*開催日の詳細はウェブサイトでお知らせします。



ブックフェア

10.5 (土) -10.27 (日)

会場：京都岡崎 蔦屋書店

参加アーティストの関連書籍や、フェスティバルのキーワード「えーっとえーっと」をテーマに集めたKYOTO EXPERIMENT ブックフェアを「京都岡崎 蔦屋書店」で開催します。

ここでしか購入できない、KYOTO EXPERIMENT オリジナルグッズも販売します。よりフェスティバルを楽しむために、観劇前後にぜひお立ち寄りください。



パートナーホテル

KYOTO EXPERIMENT とパートナーシップを結んでいるホテルです。会場からの交通の便もよく、観劇や京都観光を夜まで楽しんだ後は宿でゆっくり過ごせます。

ホテルに宿泊するお客様には、当日公演会場の受付でご提示いただくと、Shows のチケット料金が¥500 引きになるパートナーホテル利用者限定クーポンを提供します（当日券のみに適用）。

- ・ Ace Hotel Kyoto (エースホテル京都)
- ・ KAGANHOTEL (河岸ホテル)
- ・ THE REIGN HOTEL KYOTO (ザ・レインホテル京都)
- ・ node hotel (ノードホテル)
- ・ HOTEL ANTEROOM KYOTO (ホテルアンテルーム京都)
- ・ BnA Alter Museum
- ・ MAGASINN KYOTO (マガザンキョウト)



BnA Alter Museum
Photo by Tomooki Kengaku

📖 関連プログラム

📖 2024年度 舞台芸術プロデュース講座～演劇・ダンス編

地域の舞台芸術のプロデュース／企画制作領域の専門人材の育成プログラム。強力な講師陣を迎え、舞台芸術プロデュース、舞台制作、マネジメントに関するレクチャーとワークショップを開催する。演劇やダンスをプロデュースする仕事とは、企画はどのようにつくられていくのかなど、社会と舞台芸術をむすぶ制作者たちのシゴトのイロハから、舞台芸術における「プロデュース」のさまざまなカタチを知り、未来の舞台芸術について考える講座。

2024年11月-2025年1月全8回（予定）

初回講座：2024年11月11日（月）

会場：ロームシアター京都ほか

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、KYOTO EXPERIMENT、NPO法人京都舞台芸術協会、京都市
 助成：文化庁文化芸術振興費補助金
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業（劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業）
 独立行政法人日本芸術文化振興会

📖 批評家・イン・レジデンス@ KYOTO EXPERIMENT 2024

近年、特にSNSの勢いが増す中、批評や言論を取り巻く環境が激しい変化に直面している。これまで批評の中心的なプラットフォームとなっていた紙媒体が一部存続の危機にさらされている一方、デジタル空間の可能性を活かした表現活動が増えている。その中でアートや文化の批評はどのような状況におかれ、どのような可能性を開くことができるのか？駐日欧州連合代表部が批評の現在と今後を考えることを目標に、EU加盟国から文化やアートを専門とする批評家を8名、KYOTO EXPERIMENT 2024の期間中に京都へ招聘し、対話型レジデンスを開催する。本レジデンスは、参加者が自らの知識や経験を共有し、アートや文化政策の環境を育む批評、社会における文化とアートの役割について共に考察する場を目指している。フェスティバルの期間中、シンポジウム、パネル・トーク、ワークショップ、フィードバックセッションなど、様々なイベントを開催する予定。

詳細は随時 KYOTO EXPERIMENT のウェブサイトでお知らせします。

参加批評家（EU）[アルファベット順]

Luca Domenico Artuso（イタリア）、Laura Cappelle（フランス）、Freda Fiala（オーストリア）、Tamás Jászay（ハンガリー）、Michael Lanigan（アイルランド）、Santa Remere（ラトビア）、Aistė Šivytė（リトアニア）、Ilinca-Tamara Todoruț（ルーマニア）

日本側ファシリテーター：池田剛介、古後奈緒子

* 上記EUからのレジデントとは別にセゾン文化財団から選考される日本拠点のレジデントが活動の一部を共にする予定

滞在期間：2024年10月5日（土）-27日（日）

主催：駐日欧州連合代表部

協力：KYOTO EXPERIMENT、公益財団法人セゾン文化財団

運営：ゲート・インスティテュート東京

提携プログラム

京都学生演劇祭 2024

コロナ禍を経て、学生劇団は技術の継承やプレイヤーの減少など、様々な危機に直面している。しかし、人が集まり、集団で一つの作品の創作を目指し、そして完成したものをこれまた人が集まって目撃するという演劇が持つ強みは、多種多様なコンテンツが興隆する2024年においても、通用し得るものではないか。

「今、京都で最もおもしろい舞台をつくる学生劇団はどこか」という問いに答えるべく始まった京都学生演劇祭、今年は演劇への「再入場」をテーマに演劇祭を立ち上げる。

今回は、KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクターの川崎陽子が審査員として参加。従来の概念に捉われず実験的な創作を試行錯誤しチャレンジした作品及び団体に対して、＜KYOTO EXPERIMENT 賞＞を設ける。



らせんの目『密度の実験』
(2023年度のKYOTO EXPERIMENT 賞受賞作品)
撮影：北川啓太

9.7 (土) -9.15 (日)

会場：養正児童公園『希望の広場』野外特設舞台

(住所：京都市左京区田中馬場町6-27)

主催：京都学生演劇祭実行委員会

提携：日本学生演劇プラットフォーム、かがわデルタフェスティバル実行委員会、KYOTO EXPERIMENT

豊岡演劇祭 2024

豊岡演劇祭は、劇場だけではなく温泉街、海岸、高原、神社の境内に設けられた木造の農村舞台など、まちのいたるところが舞台になるのが大きな特徴。5年目を迎える今年のテーマは、“観る寄る巡る。”

山陰海岸ジオパークとも重なる土地の魅力をも十分に引き出すとともに、全国の舞台芸術ファンの期待に応えるプログラムに、国際共同企画、若手カンパニーやストリートパフォーマンスなども合わせると国内外から約70の団体がこの地に集まる。



9.6 (金) -9.23 (月・祝)

会場：豊岡市、養父市 ほか

主催：豊岡演劇祭実行委員会 香美町公演共催：香美町、朝来市公演共催：朝来市、宝塚市公演共催：宝塚市
令和6年度文化庁文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業

ニューイ・ブランシュ KYOTO 2024

京都市と関西日仏学館が毎秋主催するニューイ・ブランシュ KYOTO は、京都市の姉妹都市であるパリ市発祥のアートイベント。日本の「人間国宝」の考え方にちなみ、フランスで1994年に創設された「メートル・ダール」制度が今年30周年を迎えたことから、本年は「Transmission (継承)」をテーマに、日仏アーティストによるパフォーマンスやインスタレーション、展覧会等、多彩なアートを京都市内各地でお届けする。



9.28 (土) -10.26 (土)

* 一部会場を除く

* 9.28 (土) は「スペシャルデー」として概ね全会場をお楽しみいただけます。

会場：京都駅ビル、関西日仏学館 他、京都市内各所

主催：京都市、関西日仏学館

プロデュース & コーディネーション：MUZ ART PRODUCE

📍 OKAZAKI PARK STAGE 2024

ロームシアター京都の中庭「ローム・スクエア」を会場に、今年も秋の賑わいを創出する。毎年おなじみの岡崎地域を中心とした市民ステージや、アーティスト小山田徹との焚き火のほか、公募参加のパフォーマンスも行う。

9.28 (土) -10.27 (日)

会場：ロームシアター京都 ローム・スクエア

主催：ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市
協力：京都市岡崎いきいき市民活動センター



©Toshiaki Nakatani

📍 ラシッド・ウランダン

『Corps extrêmes (コールエクストレーム) — 身体の極限で』

現代サーカスとコンテンポラリーダンスが融合！アスリートとアーティストによるアンサンブル。

2022年上演のカンパニーXY with ラシッド・ウランダン『Möbius /メビウス』で好評を博したフランスの振付家ラシッド・ウランダン。綱渡りをはじめ、空中飛行や無重力状態を想起させる超絶技巧が繰り出され、ロッククライミングに使われる巨大な白壁をパフォーマーが駆けあがる。本作は、日常生活とはかけ離れた、まさに極限状態の身体が放つ魅力を探求した作品。スポーツと芸術の狭間で、舞台上を軽やかに駆け回るアクロバット・アーティストとアスリートが、観る者をドキュメンタリーと夢が交差する世界に誘う。

11.2 (土) -11.3 (日)

会場：ロームシアター京都 サウスホール

主催：ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市、ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ&アーペル

共同招聘：彩の国さいたま芸術劇場 (公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団)

助成：文化庁文化芸術振興費補助金 (劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会



© Pascale Cholette

📍 マルコ・ダ・シウヴァ・フェレイラ

『CARÇA カルカサ』

日本初上演！多様性豊かなダンサーと音楽家が贈る熱いひととき

ポルトガルの若手振付家マルコ・ダ・シウヴァ・フェレイラを日本初紹介。タイトルの「Carça (カルカサ) (ポルトガル語で「残骸」の意味) とは裏腹に、舞台上では10人のダンサーと2人の音楽家による躍動感満点のエネルギッシュなダンスが繰り広げられる。民族舞踊と、LGBTQIA+ やヨーロッパ旧植民地など様々なコミュニティにおける現代的なダンススタイルが複雑に組み合わせられた本作は、活気あふれるダンサーの身体を通して集団的アイデンティティや集団的記憶、文化の構築について探求する取り組みである。

11.15 (金) -11.16 (土)

会場：ロームシアター京都 サウスホール

主催：ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市、ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ&アーペル

共同招聘：高知県立美術館

助成：文化庁文化芸術振興費補助金 (劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

後援：ポルトガル大使館



© José Caldeira

会場

A: ロームシアター京都

／ミーティングポイント ローム・スクエア

京都市左京区岡崎最勝寺町 13

Tel 075-771-6051

- ・地下鉄東西線「東山駅」より徒歩約 10 分
- ・市バス 32、46 系統「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ
- ・駐輪場あり、駐車場なし（近隣にみやこめっせ駐車場・岡崎公園駐車場あり）



ロームシアター京都, Photo by Shigeo Ogawa

B: 京都芸術センター

京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2

Tel 075-213-1000

- ・地下鉄烏丸線「四条駅」、阪急京都線「烏丸駅」下車、22・24 番出口より徒歩 5 分
- ・駐輪場あり、駐車場なし

C: 京都芸術劇場 春秋座

京都市左京区北白川瓜生山 2-116 京都芸術大学内

Tel 075-791-8240

- ・叡山電車「茶山・京都芸術大学駅」より徒歩約 10 分
- ・市バス 3、5、204 系統「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車すぐ
- ・駐輪場あり、駐車場なし（原付・バイクはご遠慮下さい）



京都芸術センター, Photo by Nobutada Omote

D: 京都市役所本庁舎屋上庭園

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488

・地下鉄東西線「京都市役所前駅」下車すぐ、京阪本線「三条駅」より徒歩 6 分

・市バス「京都市役所前」より徒歩 1 分

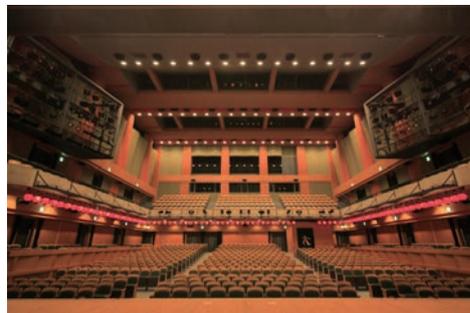
・駐輪場、駐車場なし

E: THEATRE E9 KYOTO

京都市南区東九条南河原町 9-1

Tel 075-661-2515

- ・JR「京都駅」八条口より徒歩約 14 分
- ・JR・京阪「東福寺駅」より徒歩約 7 分
- ・地下鉄「九条駅」より徒歩約 11 分
- ・駐輪場あり、駐車場なし



京都芸術劇場 春秋座, Photo by Toshihiro Shimizu

F: 堀川御池ギャラリー

京都市中京区押油小路町 238-1

Tel 075-255-9023

- ・地下鉄東西線「二条城前駅」より徒歩 3 分
- ・市バス 9、12、15、50、67 系統「堀川御池」下車すぐ
- ・駐輪場、駐車場なし

G: 京都府立府民ホール“アルティ”

京都市上京区烏丸通一条下ル龍前町 590-1

Tel 075-441-1414

・地下鉄烏丸線「今出川駅」より徒歩 5 分

*駐輪場あり、駐車場なし

H: ミーティングポイント BnA Alter Museum

京都府京都市下京区天満町 267-1

Tel 075-748-1278

- ・阪急京都線「京都河原町駅」より徒歩 6 分
- ・市バス 17、205 乙、4 系統「河原町松原」より徒歩 3 分
- ・市バス 3、5、46 系統「四条河原町」より徒歩 8 分
- ・駐輪場、駐車場なし



THEATRE E9 KYOTO

チケット情報

2024年8月9日(金) 12:00よりチケット発売開始!

	アーティスト		前売券				当日券	席種
			一般	ユース*・ 学生 *25歳以下	高校生 以下	ペア (前売のみ)		
1	ムラティ・ スルヨダルモ	『TIDAK APA-APA』(展示)	入場無料				前売料金 と 同額	—
		『スウィート・ドリームス・ スウィート』(パフォーマンス)	¥2,500	¥2,000	¥1,000	¥4,500		入場券
2	アレッサンドロ・シャッローニ 『ラストダンスは私に』	¥2,000	¥1,500	¥1,000	¥3,500	自由席		
3	(ラ) オルド × ローン with マルセイユ国立バレエ団 『ルーム・ウィズ・ア・ビュー』	¥5,500	¥3,000	¥1,000	¥10,500	指定席		
4	オラ・ マチェイエフスカ	『ボンビックス・モリ』	¥3,500	¥3,000	¥1,000	¥6,500		自由席
		『ロイ・フラー：リサーチ』	¥2,500	¥2,000	¥1,000	¥4,500		入場券
5	松本奈々子&アンチー・リン (チラス・タホス) 『ねばねばの手、ぬわれた山々』	¥3,000	¥2,500	¥1,000	¥5,500	自由席		
6	クリスチャン・リゾー 『D'après une histoire vraie—本当にあった話から』	¥4,500	¥3,000	¥1,000	¥8,500	指定席		
7	穴迫信一 × 振子びじん with テンテンコ 『スタンドバイミー』	¥3,500	¥3,000	¥1,000	¥6,500	自由席		
8	マチルド・モニエ & ドミニク・フィガレラ 『ソープオペラ、インスタレーション』	¥3,500	¥3,000	¥1,000	¥6,500	自由席		
9	チェン・ティエンジュオ & シコ・スティヤント 『オーシャン・ケージ』	¥4,000	¥3,000	¥1,000	¥7,500	入場券		
10	余越保子/愛知県芸術劇場 『リンチ (戯曲)』	¥3,000	¥2,500	¥1,000	¥5,500	自由席		
11	ジャハ・クワ / CAMPO 『ハリボー・キムチ』	¥3,500	¥3,000	¥1,000	¥6,500	自由席		
12	アミール・レザ・コヘスタニ /メヘル・シアター・グループ 『ブラインド・ランナー』	¥3,500	¥3,000	¥1,000	¥6,500	自由席		
—	Super Knowledge for the Future [SKF]		無料・予約優先 *一部有料プログラムあり SKFのプログラムはウェブサイトよりご予約ください。				—	
—	ミーティングポイント		入場無料				—	

📄 チケット取扱

📄 KYOTO EXPERIMENT チケットセンター

オンライン | <https://www.s2.e-get.jp/kyoto-ex/pt/> (セブン-イレブン引取またはQR発券)

電話予約 | 075-213-0820 (セブン-イレブン引取)

窓口 | 京都市中京区少将井町 229-2 第7長谷ビル 6F

取扱時間 | 平日 11:00-19:00 (開催期間中は無休)

📄 ロームシアター京都チケットカウンター

オンライン | <https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/> (要事前登録・無料)

電話予約 | 075-746-3201

窓口 | 京都市左京区岡崎最勝寺町 13 1F

取扱時間 | 10:00-17:00 無休 (臨時休館日等により変更の場合あり)

📄 チケットぴあ

オンライン | <https://t.pia.jp>

※その他、各会場でもプログラムのチケット取扱いあり。(各会場で開催するプログラムのチケットのみ販売)

[京都芸術センター、京都芸術劇場チケットセンター、THEATRE E9 KYOTO]

フリーパスチケット&各種割引チケット

※フリーパスおよび各種セット券は KYOTO EXPERIMENT チケットセンターでのみ取扱い／前売のみ／本人のみ有効。

📄 フリーパス | ¥36,000

📄 ユース*・学生フリーパス | ¥20,000

Shows の有料公演 13 演目をご覧いただけます。(1 演目につき 1 回。オラ・マチェイエフスカは両演目鑑賞いただけます。枚数限定。)

* 25 歳以下

※ユース・学生フリーパスは要証明書提示。

📄 3 演目券 | ¥8,700

Shows の有料公演のうち、(ラ) オルド × ローン with マルセイユ国立バレエ団『ルーム・ウィズ・ア・ビュー』を除く 12 演目の中から好みの 3 演目を選び、全て同時に購入することでお得に観劇できるセット券です。

📄 『ルーム・ウィズ・ア・ビュー』+ 2 演目券 | ¥11,000

(ラ) オルド × ローン with マルセイユ国立バレエ団『ルーム・ウィズ・ア・ビュー』と、それ以外の Shows の 12 演目の中から好みの 2 演目とを組み合わせさせてご観劇いただけます。

📄 ユース*・学生 3 演目券 | ¥6,900

Shows の有料公演 13 演目の中から好みの 3 演目を選び、全て同時に購入することでお得に観劇できるセット券です。

* 25 歳以下

※ユース・学生 3 演目券は要証明書提示。

📄 オラ・マチェイエフスカ 2 演目券 | ¥5,500

オラ・マチェイエフスカ『ボンビックス・モリ』、『ロイ・フラー：リサーチ』の 2 演目をお得に観劇できるセット券です。

📄 パートナーホテル割

パートナーホテル利用時に配布されるクーポンを当日公演会場の受付でご提示いただくと、Shows のチケット料金が ¥500 引きにてご購入いただけます。

※チケット 1 枚につき 1 名、1 回のみ有効。 ※前売チケットには適用不可

※前売券が完売した場合は、当日券の販売がない場合があります。当日券の有無については、公演当日に公式 X アカウントでご案内します。

📄 その他

車椅子でお越しのお客様は、各料金の ¥500 引きとなります。お席の指定をさせていただく場合がございます。車椅子または障害者手帳をお持ちのお客様の介助者は、1 名無料となります。ご予約・お問い合わせは、KYOTO EXPERIMENT チケットセンターまで。

☞ KEX サポーター

寄付（個人、企業版ふるさと納税）を通して KYOTO EXPERIMENT を支援していただける会員制度「KEX サポーター」を2024年も募集しています。

近年は新型コロナウイルス感染症拡大の余波、国際情勢の変化による円安や物価高の影響を受けてフェスティバルを取り巻く経済状況は大きく変化し、苦しい状況が続いています。少しでも運営を安定させ、世界各地の実験的な表現を主眼とするプログラムを継続していきたい思いで、2022年には初めてのクラウドファンディングを実施、2023年にみなさまのご支援を継続的な運営の柱のひとつとしていくために、「KEX サポーター制度」をスタートしました。

サポーター特典として、オリジナルグッズ、会員限定のスペシャルイベントへのご招待などをご用意しています。ご支援いただいた資金は、フェスティバル開催経費のうち、運営費・会場料金・舞台セット等の国際輸送費・国際移動にかかる交通費・宿泊費などに使用させていただきます。KYOTO EXPERIMENT の活動の存続・発展のために、本制度の周知のご協力のほど、よろしくお願いいたします。

※ KEX サポーターとしてご支援いただく寄付金は、「ふるさと納税」制度の対象となり、税の控除が受けられます！

サポーター募集中 ☞ 7月29日（月）23:59まで

URL ☞ <https://congrant.com/project/kyotoart/11940>

コース	Sakura	Ume	Take	Matsu
金額	1万円	3万円	5万円	10万円
公演ご招待		 1 演目	 2 演目	 3 演目
オリジナルバッグ				
サポーター限定 会員バッジ				
チケット先行予約				
スペシャルイベント への参加				
お名前の掲載				

☞ サポーター全員にプレゼント！

- KEX サポーター会員証（フェスティバル開催期間中に受付やミーティングポイントで提示すると、特典が受けられます）
- 前売券の先行予約のご案内
- スペシャルイベントへご招待（例：フェスティバル会期前に会員限定パーティ）
- ウェブサイト・当日パンフレットにお名前の掲載（希望者のみ）

※ KYOTO EXPERIMENT オリジナルバッグと演目のご招待について

KYOTO EXPERIMENT オリジナルバッグと演目のご招待は、京都市外在住の方のみお受取りいただけます。（ふるさと納税制度のため）

アーティスト		会場	プレ期間	5	6	7	8	9	10	11	12
				土	日	月	火	水	木	金	土
1	ムラティ・スルヨダルモ	展示	B	展示 10:00-20:00							
		パフォーマンス	D	12:15	12:15						
2	アレックスandro・シャッローニ	B		16:00	13:00 WS 16:00 ★♡						
3	(ラ) オルド × ローン with マルセイユ国立バレエ団	A	10/4 11:00 WS	18:00 ♡	18:00 ★						
4	オラ・マチェイエフスカ	ボンピックス・モリ	A							19:00	16:30 ★♡
		ロイ・フラー：リサーチ	B					19:00 WS			
5	松本奈々子 & アンチャー・リン (チワス・タホス)	E									14:00
6	クリスチャン・リゾー	C									19:00
7	穴迫信一 × 振子びじん with テンテンコ	F									
8	マチルド・モニエ & ドミニク・フィガレラ	A									
9	チェン・ティエンジュオ & シコ・スティヤント	A									
10	余越保子 / 愛知県芸術劇場	B									
11	ジャハ・クー / CAMPO	A									
12	アミール・レザ・コヘスタニ / メヘル・シアター・グループ	G									
Super Knowledge for the Future [SKF]											
①『リンチ (戯曲)』を読む会 ②踊りの継承について ③食のえーっと ④ Future Dictionary ⑤『無駄』の研究 2024 ⑥不利益とは？ ⑦『ガーダパレスチナの詩』上映会 ⑧ジャハ・クー アーティスト・トーク			① -1 9/11 18:00 ① -2 9/18 18:00 ② 10/4 18:30						③ 18:30		④ 11:30

★ポスト・パフォーマンス・トーク

♡託児サービスあり

~~第~~ KYOTO EXPERIMENT

13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	上演時間
日	月・祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
展示 10:00-20:00														—	
														180 min	
														30 min	
														70 min	
														60 min	
	18:30 ♡														40 min
14:00 18:00 ★	14:00 ★														60 min (予定)
10:00 WS 19:00 ★♡															60 min
					15:00 ★	13:00 19:00	13:00 ♡								60-120 min
					19:00	11:00 WS 19:00 ♡	16:00 ★								45 min
						16:00 ♡	16:00								100 min
												16:30 ★	16:30	15:30 ♡	100 min
												19:00 ★	14:30	18:00 ♡	60 min
													19:00 ★	13:30 ♡	60 min
				⑤ 18:30		⑥ 10:00						⑦ 18:00		⑧ 16:00	—

📖 開催クレジット

主催 京都国際舞台芸術祭実行委員会
 [京都市
 ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)
 京都芸術センター (公益財団法人京都市芸術文化協会)
 京都芸術大学 舞台芸術研究センター
 THEATRE E9 KYOTO (一般社団法人アーツシード京都)]
 一般社団法人 KYOTO EXPERIMENT

共同主催 ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ & アーペル
 (dancereflections-vancleefarpels.com)
 [アレッサンドロ・シャッローニ、(ラ) オルド × ローン with マルセイユ国立バレエ団、
 オラ・マチュエフスカ、クリスチャン・リゾー、マチルド・モニエ & ドミニク・フィガレラ]
 独立行政法人国際交流基金 [松本奈々子&アンチー・リン (チウス・タホス)]
 *令和6年度国際交流基金舞台芸術国際共同制作事業として制作

助成 文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術等総合支援事業 (国際芸術交流))
 | 独立行政法人日本芸術文化振興会
 一般財団法人地域創造
 公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド

助成 Center Stage Korea
 (個別プログラムに対する) 笹川日仏財団
 Flanders State of the Art
 公益財団法人カメイ社会教育振興財団 (仙台市)

特別協力 イタリア文化会館 - 大阪

協賛 株式会社長谷ビル、p-a-c 目黒

後援 在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ

機材協力 株式会社流 (RYU)、有限会社クワット、株式会社タケナカ

協力 BnA Alter Museum、Ace Hotel Kyoto、KAGANHOTEL、THE REIGN HOTEL KYOTO、
 ホテルアンテルーム京都、node hotel、MAGASINN KYOTO、京都岡崎 蔦屋書店、
 京都学生演劇祭 2024、豊岡演劇祭 2024、ニューイ・ブランシュ KYOTO 2024、
 駐日欧州連合代表部、ゲーテ・インスティトゥート・東京



京都国際舞台芸術祭実行委員会

委員長	山本麻友美（京都芸術センター副館長）
副委員長	石田洋也（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団専務理事）
委員	安藤善隆（京都芸術大学 舞台芸術研究センター所長／同大学教授）
	梅山いつき（演劇研究者／近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻准教授）
	小倉由佳子（ロームシアター京都事業課長）
	小崎哲哉（ICA 京都 REALKYOTO FORUM 編集長）
	蔭山陽太（一般社団法人アーツシード京都理事／THEATRE E9 KYOTO 支配人）
	小山田 徹（美術家／京都市立芸術大学教授）
	牧澤 憲（京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課事業推進担当課長）
	松本守弘（公益財団法人京都市芸術文化協会専務理事兼事務局長）
	吉岡 洋（美学者／京都芸術大学 文明哲学研究所教授）
顧問	天野文雄（能楽研究者／大阪大学名誉教授）
	太田耕人（演劇評論家／京都教育大学学長）
	茂山あきら（狂言師／NPO 法人京都アーツミーティング理事／THEATRE E9 KYOTO 館長）
	篠原資明（京都大学名誉教授）
	千 宗室（裏千家家元）
	建畠 哲（詩人／美術評論家／京都芸術センター館長）
	畑 律江（毎日新聞客員編集委員／大阪芸術大学短期大学部客員教授）
	平田オリザ（劇作家・演出家／劇団「青年団」主宰／芸術文化観光専門職大学学長／京都市特別顧問）
	（五十音順）

京都国際舞台芸術祭実行委員会事務局

共同ディレクター	川崎陽子、塚原悠也、ジュリエット・礼子・ナップ
事務局長	垣脇純子
事務局	井上美葉子、門脇俊輔、渡邊裕史
広報	後藤孝典、豊山佳美、前田瑠佳
事務局サポート	永澤萌絵、平川博理
広報サポート	當間 芽
制作統括	山崎佳奈子（KANKARA Inc.）
制作	黒田裕子、齋藤 啓、清水聡美、清水 翼（KANKARA Inc.）、柴田聡子、新田幸生 [ロームシアター京都] 垣田みずき、川原美保、枡谷雄一郎 [京都芸術センター] 黄 宇曦、谷 竜一、寺岡樹音、西田祥子、平居香子 [京都芸術大学 舞台芸術研究センター] 井出 亮、藤井宏水 [THEATRE E9 KYOTO] 奥山愛菜
Kansai Studies コーディネーター	竹宮華美
テクニカルディレクター	夏目雅也
テクニカルコーディネーター	北方こだち、小林勇陽、綿中駿介
テクニカルデスク	さかいまお
事務局インターン	青木勇都、朱美霖、主馬、山上奈々羽
ドキュメントコーディネート	和田ながら、山口紀子
和文英訳	Art Translators Collective（リリアン・キャンライト、アレックス・デュドク・ドゥ・ヴィット、内山もにか）、ウィリアム・アンドリュース
アートディレクション・デザイン	小池アイ子
デザインアシスタント	田中ヴェートリ美南海
ウェブディレクション	bank to LLC.（光川貴浩、早志祐美）
ウェブデザイン	吉田健人（bank to LLC.）
ウェブプログラム・コーディング	人見和真（bank to LLC.）、若林成実（bank to LLC.）
アドバイザーボード	大澤寅雄（合同会社文化 commons 研究所代表） 富樫佳織（京都精華大学メディア表現学部准教授）